

令和4年度

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価報告書



令和5年8月

邑南町教育委員会

## 目 次

はじめに	・・・	1
1 教育委員会の開催実績	・・・	1
2 教育委員の諸活動	・・・	4
3 教育委員の研修等	・・・	4
4 教育委員会だより	・・・	5
5 教育委員会所見	・・・	5
6 第三者評価期間委員からの意見骨子	・・・	10
7 令和4年度邑南町教育委員会点検・評価表	・・・	13

(P 1 ~ P 3 5)

資料 教育委員会点検・評価に係る自己評価の考え方

## 令和4年度教育委員会点検・評価と公表についての自己評価について

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、事務の管理及び執行について点検・評価を行い、その結果の報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されています。邑南町教育委員会では、効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たすために、邑南町教育施策の実施計画をもとに、自己点検及び評価を行い、第3者評価委員の意見をふまえて議会へ報告します。

### 1 教育委員会の開催実績

定例（毎月開催）の教育委員会… 11回

臨時の教育委員会… 3回

\*詳しくは以下のとおりです。

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
4月19日	1. 邑南町教育委員会事務局規則の一部改正について 2. 令和4年度邑南町小中学校主任等発令意見具申について 3. 令和4年学校地域コーディネーターの委嘱について 4. 瑞穂ハンザケ自然館運営委員会委員の委嘱について 5. 邑南町郷土館活動推進協議会委員の委嘱について
5月20日	1. 邑南町教育支援委員会委員の委嘱について 2. 邑南町社会教育委員の委嘱について 3. 邑南町井原公民館再整備検討委員会要綱の制定について 4. 令和4年度邑南町一般会計補正予算第1号（案）について 5. 工事請負契約の締結について 6. 財産の取得について 7. 邑南町中学校部活動指導員配置事業実施要綱の制定について
6月22日	1. 令和4年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について 2. 令和4年度邑南町教育施策実施計画について 3. 教育支援委員会への諮問について
7月26日	1. 一般図書の採択について 2. 令和4年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の追加認定について

	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 指定校変更について</li> <li>4. 邑南町教育委員会の点検評価及び公表に係る第三者評価機関委員の委嘱について</li> <li>5. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価について</li> <li>6. 学校給食審議会委員の委嘱について</li> </ul>
8月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価について（継続審議）</li> <li>2. 令和4年度邑南町一般会計補正予算第3号（案）について</li> <li>3. 学校給食審議会への諮問について</li> <li>4. 区域外就学について</li> </ul>
8月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価について</li> <li>2. 令和4年度邑南町一般会計補正予算第4号（案）について</li> <li>3. 工事請負契約の締結について</li> <li>4. 教育支援委員会の答申について</li> <li>5. 邑南町要保護及び準要保護児童生徒就学援助実施要綱の一部改正について</li> <li>6. 史跡久喜銀山遺跡保存活用委員会設置要綱の制定について</li> <li>7. 指定校変更について</li> </ul>
9月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町PCR検査費助成要綱の一部改正について</li> <li>2. 教育支援委員会への諮問について</li> </ul>
10月14日	協議事項のみ
10月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町奨学基金条例の一部改正について</li> <li>2. 邑南町立小・中学校の教職員の服務規則の一部改正について</li> <li>3. 邑南町教育委員会会議規則の一部改正について</li> <li>4. 邑南町教育委員会会議オンライン出席等取扱要領の制定について</li> <li>5. 令和4年度邑南町要保護及び準要保護児童生徒就学援助の追加認定について</li> </ul>
11月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町学校給食費条例の一部改正について</li> <li>2. 邑南町学校給食費条例施行規則の一部改正について</li> <li>3. 邑南町一般会計補正予算第9号（案）について</li> <li>4. 邑南町博物館類似施設の館内撮影等に関する取扱要綱の制定について</li> <li>5. 令和4年度邑南町要保護及び準要保護児童生徒就学援助の追加認定について</li> </ul>
11月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 史跡久喜銀山遺跡保存活用委員会委員の委嘱について</li> <li>2. 邑南町スクールバス条例の一部改正について</li> <li>3. 邑南町スクールバス条例施行規則の一部改正について</li> <li>4. 教育支援委員会の答申について</li> </ul>

1 月 2 5 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 井原公民館再整備検討委員会設置要綱の一部改正について</li> <li>2. 井原公民館再整備検討委員会委員の委嘱について</li> <li>3. 邑南町立小・中学校教職員の服務規則の一部改正について</li> <li>4. 令和4年度邑南町一般会計補正予算第12号(案)について</li> <li>5. 令和4年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助新入学児童生徒学用品費の支給認定について</li> <li>6. 教育支援委員会答申について</li> <li>7. 邑南づくり教育計画の改定について</li> </ol>
2 月 7 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町教職員住宅管理条例施行規則の一部改正について</li> <li>2. 教職員人事異動内申について</li> <li>3. 邑南づくり教育計画の改定について</li> </ol>
2 月 2 1 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町学校給食費条例の一部改正について</li> <li>2. 邑南町学校給食費条例施行規則の一部改正について</li> <li>3. 邑南町一般会計補正予算第14号(案)について</li> <li>4. 令和5年度邑南町一般会計当初予算(案)について</li> <li>5. 邑南町スクールバス条例の一部改正について</li> <li>6. 邑南町スクールバス条例施行規則の一部改正について</li> </ol>
3 月 2 3 日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 邑南町公民館館長の任命について</li> <li>2. 邑南町公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>3. 邑南町小中学校管理規則の一部改正について</li> <li>4. 邑南町外国語指導助手任用規則の一部改正について</li> <li>5. 邑南町国際交流員任用規則の一部改正について</li> <li>6. 邑南町教育委員会事務局組織の一部改正に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について</li> <li>7. 邑南町教育委員会事務局組織の一部改正に伴う関係告示の整備に関する告示の制定について</li> <li>8. 邑南町教育委員会事務局組織の一部改正に伴う関係訓令の整備に関する訓令の制定について</li> <li>9. 邑南町社会教育委員の委嘱について</li> <li>10. 邑南づくり教育計画の改定について</li> <li>11. 邑南町スポーツ推進委員の委嘱について</li> <li>12. 邑南町学校歯科医の委嘱について</li> <li>13. 邑南町郷土館館長の任命について</li> <li>14. 邑南町立図書館館長の任命について</li> <li>15. 邑南町立小・中学校の教職員の服務規則の一部改正について</li> </ol>

## 2 教育委員の諸活動

- ② 学校行事への出席（入学式、卒業式など）
- ②町、教育委員会行事への出席（はたちを祝う式典など）
- ③その他の活動（学校訪問、総合教育会議など）

\*詳しくは以下のとおり

開催日	内 容
4月 4日	教職員着任式
4月11日	小中学校入学式
5月25日	学校訪問（5/25 羽須美中、石見中、瑞穂中、高原小）
6月24日	（6/24 石見東、市木小、矢上小、日貫小）
7月 1日	（7/ 1 阿須那小、口羽小、瑞穂小）
1月 3日	はたちを祝う式典
3月11日	中学校卒業式
3月17日	小学校卒業式
3月27日	教職員退任式
3月28日	第1回総合教育会議 テーマ「生徒指導提要の改訂を受けて」

## 3 教育委員の研修など

新型コロナウイルス感染症等の影響により各種研修会中止。

開催日	研 修 内 容

## 4 教育委員会だより

令和4年度は、教育委員会だより「邑南の教育」を年3回発刊しました。

内容は、教育委員会の会議などの活動状況に加え、各学校の紹介、社会教育関係行事などの紹介をしました。

## 5 教育委員会所見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政の責任体制が明確化された、新たな教育委員会制度が、平成27年4月1日から施行され、邑南町教育委員会では平成28年から新制度に移行しています。

毎年度「教育施策の実施計画」を定め、具体的な事業内容については教育委員会だより「邑南の教育」を通じて、町民の皆様方へお知らせしてきました。

教育委員は、「教育の魅力化」の推進のため学校訪問により各校の抱える課題の把握に努めました。「生徒指導提要の改訂を受けて」をテーマにした総合教育会議を実施しました。

以下、令和4年度の主な事業です。

### (1) 教師力向上対策事業・学力向上対策事業の取り組み

#### 【教師力向上対策事業】

#### ① 学び合い訪問指導（計15回）

主体的・対話的で深い学びの実現の為に必要な授業づくりの手法を研究するための事業

講師：山下 政俊氏（邑南町学び合い専任講師）

#### ② 情報活用教育講座

図書資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学ぶ事業

講師：塩谷京子氏（放送大学客員准教授）

### ③多様性教育ガイドセミナー

自分との関わりを大切にし、差別を読み解く確かな力、差別に立ち向かう力を伸ばすための手法を学ぶ事業

講師：土田光子氏（おおさか多様性教育ネットワーク 共同代表）

#### 【学力向上対策事業】

### ①辞書引き学習会の実施

小学校1年生から辞書引き学習に取り組み、子どもの読解力を高めたり、調べたりする力を育てるための事業

講師：深谷圭助氏（中部大学教授）

神永 暁氏（NPO こども・ことば研究所 副理事長）

### ②リーディングスキルテストの実施

中学3年生を対象にWebにてリーディングスキルテスト（読解力テスト）を実施し、その結果を分析し、各校の学力向上に役立てる事業

### ③花まる算数教室の実施

全小学生の希望参加で、年間7回（羽須美地域、瑞穂地域、石見地域 同時開催）算数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を解くことで、基礎的な学力育成を図るとともに、算数に対する意欲向上を高める事業

講師：地域ボランティア、地元高校生

### ④調べる学習作品展の実施

町内の小中学校から調べ学習の作品を募集、展示、評価する機会をつくることで、図書館活用教育などの充実を図る事業

○前期～9月中旬、後期～1月下旬から2月上旬に実施

### ⑤おおなんドリーム学びの集いの実施

各学校において、公民館や地域の方々の協力も得ながらふるさとにおいての課題解決型学習を行い、子どもたちの活動について評価や意味づけをすることで持続可能な社会の担い手を育成する事業



## (2) 学校の魅力化

### ①地域とともにある学校づくり

地域子ども達にどのように育ててほしいのか、どんな力を付けてほしいのかという目標やビジョンを共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取り組むことを目的として、地域の住民や行政、学校（小・中学校）が主体的・創造的な対話を行いながら、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」の取り組みを進めました。

○羽須美地域 羽須美地域全体を対象とした羽須美中学校区

○瑞穂地域 瑞穂地域全体を対象とした瑞穂中学校区

○石見地域 石見地域全体を対象とした石見中学校区

### ②邑南町小規模特別認定校制度による取組

自然環境を生かすなど、特色ある教育を推進している小学校に一定の条件を付して通学区域外からの就学を認めることにより、児童の心身の健康増進と豊かな人間性を培うこと、また学校の活性化を図ることを目的とした小規模特別認定校制度を令和元年度に創設し、日貫小学校を指定校としております。

このことに関して保育所年長児の保護者に対し説明会を実施し、小規模特認校制度の概要や指定校である日貫小学校の魅力などの説明、実際に通学する上での課題の抽出などを行いました。

(小規模特別認定校への就学の条件)

(1) 邑南町に居住していること

(2) 小規模特認校の教育活動に賛同し、協力すること

(3) 保護者などの責任と負担において、児童が安全に通学できること

(4) 原則として1年間以上、最長で卒業するまで就学できること

### ③中学校部活動の地域移行について

令和5年度からの段階的な移行について条件整備を進めるため、部活動地域移行検討委員会を開催し、それぞれ抱えている課題の洗い出しを行いました。

また、国の部活動指導員制度を導入し水泳、陸上、バスケットボールについて検証を行っております。部活動の地域移行に対するアンケートを教職員、生徒、保護

者、現在部活動に関わってもらっている地域指導者、6年生児童に行っております。今後は分析を行い地域移行について地域の方、生徒、保護者、学校など関係者の理解と協力を得ながらともに取り組みを進めていきます。

### （3）学校施設整備事業の実施

新型コロナ対策交付金を活用し小中学校のトイレの改修について、児童生徒の一人当たり洋式便器の充足率が低い学校を中心に改修整備を実施しました。

また、学校施設照明のLED化については未整備箇所を選定し計画的な改修を進めています。なお、学校遊具施設は緊急点検ののち、修繕・更新・撤去の仕訳を行い、年度内にすべての改修工事を実施しました。

### （4）石見中学校改築事業

令和2年度に基本構想基本計画を策定、令和3年度に基本設計と実施設計を完了、令和4年9月に改築工事（令和6年2月末の完成予定）に着手しました。今後の予定は令和6年度に既存校舎の解体・校庭や外構工事を発注し、学校全体の整備事業完了とする予定としています。

### （5）GIGAスクール整備について

令和4年度はデジタルドリルを導入し、中学校では数学、小学校では算数の授業に活用をしました。また、GIGAスクール推進モデル校の取り組みの結果から、今後さらに普及を図るため端末の活用支援や随時更新をしていくことが必要となります。

### （6）公民館のあり方

歴史ある公民館の新しい可能性を探求し、社会教育の取り組みを発表することで、幅広さや楽しさを知ってもらう場として「WEフェス」を今回初開催しました。

公民館が、課題の発見から解決への学びや活動など住民の主体的な学びや学び合いをとおして、住民同士の交流や仲間づくりを支援する場であることをいま一度再

確認し、人が集う学びの場をめざした環境づくりに努めました。

また、公民館などを核とした人づくり機能強化事業の補助事業を受け、持続可能な地域づくりを担う人材育成に努めました。

#### (7) 共生社会の実現関連事業について

障がい理解と障がい者理解を最大の目的としたフィンランド共和国ゴールボールチーム合宿招致については、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりましたが、理解を深めていただくための取り組みを実施しました。

- ① パラリンピアンによる「一歩踏み出す勇気～自分が変われば世界が変わる～」  
講演会の実施
- ② 東海大学北欧学科教員の講演会及び大学生と中学生との交流の実施

また、フィンランド共和国交流派遣事業については合宿同様、新型コロナウイルス感染症拡大やウクライナに関わる社会情勢を鑑みて中止となりました。

#### (8) 国史跡久喜銀山遺跡の保存活用に向けた取り組み

令和3年10月に国史跡に指定された久喜銀山遺跡の保存活用について、令和4年度から2か年かけて国庫補助事業にて保存活用計画策定を行っています。

計画策定の目的は、久喜銀山遺跡を将来にわたって確実に保存し、歴史文化を生かしたまちづくりへの展開も目指しつつ、有効かつ適切に活用していくための基本計画の策定としています。このため本計画は、史跡の本質的価値や構成要素などを明確にした上で、それらを保存・活用していくための基本方針、方法、現状変更などの取扱い基準などを明らかにするものです。

また、地元で史跡保存や活用に尽力いただいている久喜銀山振興協議会に所属する久喜銀山ガイドの会、一般社団法人コミュニティーパートナーズなどの団体と協働して、草刈、除草、倒木処理などの史跡環境整備や観光・学習の案内窓口の充実を図りました。

## 6 第3者評価機関委員からの意見骨子

### 1. 生きる力を育む教育の推進（学校教育）

#### 施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

##### 1)点検・評価P 2 事務事業名③確かな学力を育む

- ・ALTが3名体制ということは、非常にいいことだと思います。小学校では5年生から授業を学んでいるが、学校以外でも生きた英語に触れる機会をつくるなど、児童・生徒が英語ギライにならないよう工夫してほしい。
- ・算数、数学の全国学力テストの結果を見ると島根県の平均点は、全国平均点に比べ小・中とも平均点が低かった。基礎的な課題を深めていき、上位を伸ばすだけでなく、下位をボトムアップする取組をしてほしい。
- ・よりよい授業を行うためには、授業の準備に多くの時間を割くことになるが、教員の働き方改革と両立できる方法を模索してほしい。
- ・基礎的な学力をつけるなかでいろいろなデータがでてくると思いますが、教育委員会で様々なデータ分析をして、授業につなげる取り組みをしてほしい。

#### 施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

##### 1)点検・評価P 1 0 事務事業名①学校設備の整備

- ・学校遊具について令和4年度に一斉点検を行ったが、引き続き日常点検及び一斉点検を行い、児童生徒の安全確保に努めていただきたい。

##### 2) 点検・評価P 1 1 事務事業名②児童生徒の健康安全対策

- ・例年通学路の安全点検を実施しているが、数年前から指摘し続けている箇所について、改善がされていない箇所がある。児童生徒の登校路の安全を確保するため、引き続き関係各所への働きかけを行っていただきたい。

## 2. 地域を担う人材の育成（社会教育）

### 施策5 社会体育の充実

#### 1) 点検評価P 2 8 事務事業名①生涯スポーツ活動

・以前はプロ野球ウエスタンリーグ公式戦の開催、バレーボールNECレッドロケッツの邑南町合宿など、本格的なプレーを間近で見ることができる活動があった。また、カルチャーバスの運行なども含め、体育、文化の面で一流に触れる機会の提供を考えていただきたい。

## 3. 地域文化の創造

### 施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

#### 1) 点検評価P 3 2 事務事業名①関係設備の整備・充実と有効活用

・郷土館の収蔵品の収納について、民具などまだ町内各所に現存しているが、まだ収納が進んでいないものもあり、貴重なものについて収納を進めてほしい。また、収蔵品について、どのようなものがあるのか、町民のみなさんに知ってもらうよう紹介していくべき。

令和5年8月10日

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価に係る第3者評価機関

委員	高橋	智也
委員	北野	将志
委員	種	直也
委員	鳥居	清枝
委員	平野	一成
委員	長谷川	淳
委員	川中	幸子
委員	大西	淳子
委員	三上	結城
委員	八田	一利

## 7. 令和4年度邑南町教育委員会点検・評価表

別添のとおり。なお、新型コロナウイルス感染症に伴う各種事業の延期や中止については、実績評価の点数には影響させていません。

# 令和4年度邑南町教育委員会点検・評価表

## 【総合評価】

主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

## 【継続、廃止等】

「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向性を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

## 【実績評価】

「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階で評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階で評価することとする。

## 1. 生きる力を育む教育の推進(学校教育)

### 施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

～つながり合い、学び合い、高めあう教室・学校づくり～

事務事業名	① 人権・同和教育の推進			
総合点検・評価			総合評価	継続、廃止等
教育委員会や学校において多くの研修機会を設けるとともに、教職員で構成する町教育研究会の人権・同和教育部会でも継続して職員研修を行い、学校全体で人権意識の高揚を図り、進路保障の取り組みに努めている。 今後も継続し、より一層推進していく必要がある。			9.0	改善し継続
課 題				
新型コロナウイルス感染に注意しながら集合型の研修を実施できた。				
主な事業内容と実施状況			実績評価	
<p>○人権・同和教育研修会</p> <p>転入教職員人権・同和教育研修は、特別の事情がない限り転入してきたすべての教職員が参加し、「邑南町の人権・同和教育の現状と課題」というテーマで、1学期に実施できた。また、各学校においては、年間計画を立てて職員研修を実施した。</p> <p>・邑南町教育研究会 人権・同和教育部会 2回</p> <p>夏季研修会では、具体的な事例をもとにその背景を考える参画型の研修を実施し、人権感覚を高めた。</p> <p>・邑南町教職員対象研修会</p> <p>自分との関わりを大切に、差別を読み解く確かな力、差別に立ち向かう力を伸ばすために、多様性教育ガイドセミナーを夏季休業中に2日間実施した。</p>			9	

事務事業名	② 実践的な学習の推進		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>どの研修会でも積極的に学ぶ教職員の姿が見られた。</p> <p>研修の成果を授業に生かす学校が見られ、意欲的に学ぶ子どもの姿につながっていた。昨年度同様、学び合い授業づくりの自校の研究に役立てながら、児童・生徒の学習意欲や学力調査結果の向上につなげた。</p> <p>学習指導要領で示されている「主体的で対話的な深い学び」につながる授業改善を図ることができた。</p>		9.0	改善し 継続
課 題			
<p>教師力向上のための研修会は、11年間継続して開催している。前年度の内容や参加者の感想などをまとめた研修案内を教職員に配布したり、邑南町教育研究会との連携を深めたりするなど、本研修の意義を事業説明会などや学校訪問などで管理職に伝達し、より多くの教職員が主体的に研修に参加できる工夫を運営面を含めて行っていくことが必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
<p>○教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合い授業の公開と研究協議 令和4年度モデル校4校(口羽小、矢上小、市木小、石見中)は2回開催 モデル校の実践は、学び合い実践記録集にまとめ、各校に配布し、児童生徒の実態に応じてよさを取り入れることができるようにした。</li> <li>・情報活用教育講座の実施 図書資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学んだ。</li> <li>・説明文の授業づくりセミナーの実施 小・中学校の説明文の専用テキストを活用して、子どもに読解力をつける指導のあり方についての研修を実施した。</li> <li>・小学校外国語セミナーの実施 小学校外国語について、これからの学びの方向性と発音指導の在り方についての研修会を実施した。</li> <li>・辞書引き学習会の実施 小学校低学年から言葉への関心を育てることで、基礎学力の定着とともに学習意欲の向上をはかるための辞書引きのあり方についての研修を実施した。</li> </ul>			9

事務事業名	③ 確かな学力を育む		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業では、新型コロナウイルス感染症拡大感染状況を見極めながら実施した。</p> <p>主な事業の一つである花まる算数教室は、参加した子どもは楽しく学ぶことができた。年度末のアンケートは、ほとんどの子どもが「算数が好きになった、わかるようになった。また参加したい」と回答していた。各学校の学習支援にもつながっている。地域スタッフや高校生スタッフの多くの方の協力が支えとなって実施できている。</p>		9.4	改善し 継続



低学年対象に実施した辞書引き学習会では、意欲的に辞書引きに取り組む子どもの姿が見られた。学習会後も継続して辞書引きに取り組み、1000枚以上の付箋を貼った児童も多く見られた。児童の読解力を高めたり、調べたりする力を育てるとともに、学習意欲の向上を高めることができた。

学校毎の分析については各学校で分析を行っており、個に応じた指導に役立っている。

全国学力学習状況調査・島根県学力調査を実施し、その調査結果から、各校において児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、改善の方向性を見出すための分析を行うよう指導した。訪問指導などで各学校に聞き取りを行った結果、各校とも分析を踏まえ実態に沿った取組が行われた。各学校で分析結果を個に応じた指導に役立っている。

定期的に学校司書の連絡会を開催した。各学校での取り組みについての情報共有やワークショップを行い、他校の取り組みを取り入れたり、新任の学校司書の知識を広げたりすることにつながった。また、県立図書館主催の研修会に参加する事で、新しい考え方を取り入れることができた。

子ども笑顔キラキラサポート事業は、学校からの配置要望人数、時間数に対して、調整をして配置を行った。また、支援を必要とする児童生徒について相談があった場合は、すこやか相談会を活用した相談支援チームによる学校訪問を行い、支援方法について検討、助言をした。

外国語指導助手(ALT)招致について、令和3年度夏よりALT3名体制としたことで、各学校へのALTの訪問時間が増加した。このことによりALTが授業者と連携しながら、授業をする場面を増やすことができた。小学校中学年の外国語活動では、チャンツや歌など楽しみながら行う活動を通して、外国語に慣れ親しむことができた。小学校高学年の外国語科では、ALTとの英会話をする機会が増えることで、必然性のあるコミュニケーションが生まれる言語活動を増やすことができた。中学校の英語科では、生徒が聞きたい、知りたい、伝えたいという感じる内容や場面を設定し、ALTと繰り返し会話をすることで、コミュニケーション能力を高めることにつながった。

## 課 題

基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業の花まる算数教室は年間7回実施した。登録者は前年度と同様、約70名である。

「分かるようになった」という児童の意識や指導スタッフから肯定的なことばがけを受け参加者の満足度は高いので、保護者への啓発や開催期日を工夫することで、参加しやすい体制づくりを進めたい。

学力調査では、各学校で調査結果・分析を踏まえた取組がされている。訪問指導などを利用して、読解力向上の取組や各学校の効果的な取組を進んで紹介することを通して、各校の学力向上の取組につなげたい。

図書の廃棄について各学校との共通認識はできているが、邑南町としての廃棄基準の作成が求められる。

子ども笑顔キラキラサポート事業は、必要に応じて、児童生徒の実態把握や支援、対応についてすこやか相談会で対応しているが、年々相談件数も増え、比例して支援員の配置人数、時間数ともに要望は増えているが人材不足で要望どおり配置できない状況である。

<p>予算的な課題が多く、各設備が老朽化しており、教材及び設備を活用した授業は、教職員の努力に依存しているところが多い。</p>		
<p>主な事業内容と実施状況</p>		<p>実績 評価</p>
<p>○基礎学力の向上・定着 基礎学力向上・定着を図るために、算数や語い学習に重点を置いた事業を実施 ・花まる算数教室 3地域で7回ずつ実施。 ・辞書引き学習会 小学1・2年生対象 町内すべての小学校が参加 辞書引き学習を行うことでの語彙数の向上を図るとともに、1年生のうちから辞書に親しませることで学校や家庭でも辞書を活用する習慣を身につけさせた。</p>		<p>10</p>
<p>○学校図書館活用の推進 ・定期的に学校司書の連絡会を実施し、各校の取組みについての情報共有や図書館見学を行った。 ・学校司書の配置(平成21年度から町内全11校に1名ずつ学校司書を配置) ・県の「学校司書等による学びのサポート事業」を活用し、学校司書の人件費の確保の一助とした。 ・学校図書館を活用した授業において、子供達が自ら調べ、まとめたりプレゼンテーションしたりする事で、情報活用の力が身につけてきている。 ・調べる学習作品展 年2回開催 ・学校図書館などを活用した調べる学習作品展の実施 前期52点、後期63点の出品があった。</p>		<p>9</p>
<p>○笑顔キラキラサポート事業 ・生活支援員を小学校5校に7人配置した。 ・学習支援員を小学校6校に6人、中学校2校に2人配置した。</p>		<p>9</p>
<p>○学力調査 ・全国学力学習状況調査4月実施(対象 小6年生 国語・算数 中3年生 国語・数学、理科) 小学校:国語～県平均 算数～県平均を下回る 理科～複式校があるためすべての問題に解答できない。 中学校:国語～県平均 数学～県平均よりやや高い 理科～県平均 ・島根県学力調査12月実施(対象:5年生・6年生、教科:国語・算数/対象:中学校1・2年、教科:国語・数学・英語)小学校5年:国語～県平均やや下回る 算数～県平均やや下回る 小学校6年:国語～県平均 算数～県平均 中学1年:国語～県平均 数学～やや上回る 英語～県平均 中学校2年:国語～県平均 数学～県平均 英語～やや下回る。中学校国語、英語は県平均とほぼ同等、数学は県平均よりやや低かった。 生活面を含めた邑南町全体の分析を行うとともに、各学校でも分析を行い、日々の授業改善や個に応じた指導に役立てている。児童生徒が自らの考えで整理し、自分の言葉で語尾までしっかり話すことや書くことができるように繰り返し粘り強く指導をしている。</p>		<p>9</p>
<p>○リーディングスキルテスト(読解力テスト)の実施 中学校3年生を対象にWEB上でリーディングスキルテストを実施した。昨年度実施した小学校と同様に、全国学力学習状況調査と読解力テストとの相関があることが分かった。これらの結果をふまえ、昨年度作成した読解力を高める授業モデルを見直し、授業改善の一方向とした。</p>		<p>9</p>

<p>○外国語指導助手招致(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際文化への関心を高め、英語と親しむことを目的に配置した。</li> <li>・小学校 2名 1人あたり4校担当/週 1回授業</li> <li>・小学校のみを担当する ALT を2名配置した。5・6年生では教科化された英語の授業、3・4年生では外国語活動での指導を行い、教職員・児童とゲームを交えながらコミュニケーションを図ることで、児童が英語に親しむことができた。また、授業以外の時間にも児童と触れ合うことで、国際交流を図った。</li> </ul>	10
<p>○外国語指導助手招致(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な英会話能力の向上を図るために配置した。</li> <li>・中学校 1名 3校/週 1~2回授業</li> </ul> <p>中学校のみを担当する ALT を1名配置した。訪問回数は週 1~2回程度だが、1日該当校で勤務しているため、授業の打ち合わせ時間や休み時間などに教職員や生徒と触れ合う時間の確保ができ、充実した国際交流が実施できた。</p>	10
<p>○教育設備の活用</p> <p>電子黒板、各教室に設置したプロジェクター、書画カメラ、スクリーン、教育用パソコンなどの設備を活用した授業の実施(中学校においては、技術の授業での「情報の技術」での実習、その他理科・数学・英語などでの教材の提示を行っている。小学校においては、すべての教科への活用に努めている。社会・理科・総合学習などでの調べ学習に活用している。)</p> <p>令和2年度にGIGAスクール事業により、小学1年生から中学3年生までの児童、生徒に対して、1人1台端末の導入を進め、さらにオンライン授業を進めるための機器についても導入をした。また、町内の11校全てに校内で使用できる校内LAN(Wi-Fi)を整備した。</p> <p>貸出し用ルータの購入や、邑南ケーブルテレビ加入促進のため要綱制定を行い、家庭で持ち帰り学習が出来るようバッグを購入し条件整備も行った。</p> <p>GIGAスクール推進モデル校として石見中、口羽小、阿須那小学校でタブレット活用について取り組みを行った。</p>	9

事務事業名	④ 特別支援教育体制の構築		
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等	
<p>特別支援相談ネットワークは学校や保育所・園に浸透し、相談の場として広く活用されている。特別支援学級の新設に伴い、必要に応じてケース会議、授業参観など実施した。また、特別支援学級の教育課程編成については浜田教育事務所から特別支援教育担当指導主事を招き、特別支援学級教育課程の説明会を実施した。保育所(園)と小学校、小学校と中学校が連携し、保護者と情報共有をしながらスムーズな就学となるよう努め、浜田教育事務所の特別支援教育支援専任教員に依頼し、相談の場を設けた。特別支援学級の教育課程編成については浜田教育事務所から特別支援教育担当指導主事を招き、特別支援学級教育課程の説明会も実施した。すこやかファイルは必要な児童に適宜配付を行った。</p> <p>通級指導教室では、各学校の児童生徒の状況に応じた指導ができた。</p> <p>教育支援センター(たけのこ学級)の活動では、定期的な学校訪問で実態把握、情報交換を行うことができた。また、町スクールソーシャルワーカー(SSW)や石見養護学校相談支援スタッフと連携し、児童生徒の特性にあった対応がで</p>	9.8	改善し継続	

<p>きた。学校と役割分担をしながら、別室登校の児童生徒との関わり、保護者面談を行った。</p> <p>いじめ対応支援事業の QU アンケートでは、各学校で学級づくり、人間関係づくりに活用されている。</p> <p>教育支援委員会は、年 3 回開催した。幼児・児童・生徒の就学について慎重に協議し、町教育委員会に答申を受けた。</p>		
課 題		
<p>相談支援ファイルすこやかについては、特別支援教育コーディネーター連絡会で活用について継続して情報提供を行った。就学前から就労期までの「切れ目のない支援」を行うため、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成方法や必要性について共有する。</p> <p>通級指導教室は、各小中学校と情報交換、連携を深め、継続した支援を実施する。</p> <p>教育支援センターでは、不登校(傾向)であった生徒について中学校卒業前に、中学校から教育支援センターの情報提供を保護者などに積極的に行い、必要に応じて在籍高校と情報交換を行う。</p> <p>QU アンケートの結果は、全国・県学力調査とも比較し、授業づくり・学級づくりの資料として十分に活用されるよう確認していく。</p> <p>SSWの活動としてケース会議への参加や保護者面談、家庭訪問等対応を検討し、対応する。</p> <p>教育支援委員会については学校内の支援検討会から町教育支援委員会へのつなぎ、連携について、より一層の充実が図られるよう引き続き周知する。学校と保護者が就学のあり方について合意形成を図ることができるよう学校と適宜情報共有を行い、連携して行く必要がある。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○特別支援相談ネットワークの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・邑南町特別支援合同相談会の定期開催を 17 回、臨時開催を 26 回の計 43 回開催した。相談件数:87 件</li> <li>・特別な支援の必要な子どもの早期発見・早期支援につなぐため、夏の保育所・園巡回訪問を各保育所・園(町内 9 箇所)を8月中に実施した。</li> <li>・特別支援相談ネットワーク総会を開催。</li> <li>・特別支援連携協議会は年度末に開催し、令和 3 年度のふりかえり、令和 4 年度の計画案について協議した。</li> </ul>		10
<p>○教育支援委員会</p> <p>教育支援委員会の審議会を開催した(審議対象者 15 名)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度度審議対象者15名の就学後の検証</li> <li>・令和4年度審議対象者 15 名の実態把握(保育所・園、小、中学校訪問)</li> <li>・令和4年度審議対象者 15 名の就学支援についての保護者面談を個別に実施</li> </ul>		10
<p>○通級指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員 瑞穂小:3 名 瑞穂中:1 名が配置されている。</li> <li>・令和4年度新規通級利用者:小学校 18(総数 40 名)、中学校 9 名(総数 16 名)</li> </ul>		10
<p>○教育支援センター(たけのこ学級)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者:16 名(単発の相談含む)</li> </ul>		10

<ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ利用人数:333人</li> <li>・学校巡回:小学校8校、中学校3校を巡回</li> <li>・相談支援チームなど関係機関と必要に応じて情報交換ができた。</li> <li>・県立石見養護学校や矢上高等学校等と支援の相談など連携を図った。</li> <li>・必要に応じて、登校支援、別室登校児童生徒との関わり、保護者面談を実施した。</li> </ul>	
<p>○スクールソーシャルワーカーの活用</p> <p>スクールソーシャルワーカーを1名配置し、いじめや不登校などの問題に対する教育相談体制を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期に各小中学校を巡回訪問</li> <li>・個別に家庭訪問も実施</li> <li>・ケース会議にも参加し、関係機関と連携を図り、問題解決に取り組んだ。</li> <li>・令和4年度の相談件数は17件。訪問回数は学校や家庭など含め156回。</li> </ul>	9
<p>○いじめ対応支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内小中学校で1学期と2学期の2回、アンケートQUを実施し、学級集団の状況を把握・分析していじめ対応の実践につないだ。</li> <li>・いじめの重大事態の事案について学校主体のケース会議、保護者会、保護者面談に出席した。</li> </ul>	10

事務事業名	⑤ 就学環境の充実		総合 評価	継続、 廃止等
	総合点検・評価			
スクールバスについて、概ね計画どおり運行できた。 就学援助費及び通学助成費の給付、就学時健康診断は、予定どおり実施することができた。			9.8	継続
課 題				
<p>スクールバス車両については、計画的に順次更新し、利用者の安全輸送を確実にするための車両整備が必要である。乗車人数の実績や過去の修繕実績や購入後の経過年数などを総合的に考慮し、車両の再編計画を適宜修正していく。</p> <p>車両数の関係から、本来であればスクールバスで通学したい児童生徒がバスを利用できていない現状がある。</p> <p>就学時健康診断では、転居予定者について現居住地校区の小中学校での健診を案内したため、転居先の校区の小中学校での受診を要望される事例もある。転入予定者や転居予定者について早めに把握し、対応する必要がある。</p>				
主な事業内容と実施状況			実績 評価	
○スクールバス運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバス10路線(雪田線、宇都井線、戸河内・長田線、下口羽・上田線、高原線、出羽線、市木線、日和線、日貫線、日貫山の内線)を運行し、学校教育活動の支援に努めた。</li> <li>・土日などの学校行事の実施により、定期便以外の時間帯にスクールバス運行が必要な場合には、学校の要望に応じて臨時便を運行した。</li> </ul>		9	

<p>○就学援助費の給付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要保護、準要保護児童生徒就学援助費の支給 認定者:小学生 86名、中学生 54名 支給額:小学生 6,432千円、中学生 6,051千円 支給額には、小学校入学前6名、325千円、小学6年(新中学1年)17名 1,020千円を含む。</li> <li>・特別支援就学奨励費の支給 該当者:小学生7名、中学生3名 支給額:小学生 229千円、中学生 148千円</li> </ul>	10
<p>○通学助成費の給付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学費助成 該当者:小学生 11名、中学生 1名 支給額:小学生 139千円、中学生 18千円</li> </ul>	10
<p>○就学時健康診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学時健診:小学校7校を会場に10月から11月に実施 (1校は入学予定者不在により実施なし) 対象者 59名 実施内容:内科・歯科検診、視力検査、聴力検査、面接検査</li> </ul>	10

## 施策2 小さな学校の大きな挑戦を支援

～子どもたちの自信を育て、地域に信頼される学校～

事務事業名	① 地域を担う意識の育成		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>各学校で実施形態、内容などは違うが、それぞれ総合的な学習の時間の年間計画にもとづいて、講話や体験が行われていた。 また、キャリア教育については、平成29年度より行っている。 地域の特性などを生かした特色ある教育活動を行っている日貫小学校を小規模特別認定校に指定し、令和2年度より校区外から就学できる制度を設けた。</p>	総合点検・評価	9.0	改善し継続
課 題			
<p>校長会や事業説明会などでキャリア学習の実施について依頼や説明をしている。 キャリア教育についてはキャリアパスポートの開始により各校での実践を重ねるとともに学期ごとの児童生徒の振り返りを充実・継続することが重要である。</p>			
<p>主な事業内容と実施状況</p>			実績評価
<p>○キャリア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療講話は、地域医療の講話～口羽小(5・6年生)・瑞穂小(5年生)・羽須美中(2年生)瑞穂中(3年生)、助産師の講話～矢上小(6年)、瑞穂中(2年)、石見中(2年)、などで実施している。医療関係ばかりでなく、全ての学校においても、人との出会いを大切にしながらの学習を深めている。町内の全ての学校において児童・生徒一人一人が、キャリアパスポートを活用し、自らの学習状況などを振り返って自己評価をしたり、これからの生き方について考えたりすることを行っている。</li> </ul>		9	

○小規模特別認定校説明会(9月23日) ・保護者1名、日貫地区活性化協議会4名、日貫小学校2名(管理職)、教育委員会2名(教育長、学校教育課長)が参加した。	
---	--

事務事業名	② 地域との共同学習		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>現状の社会情勢を鑑み、おおなんドリームについては映像でのやり取りの中で、新たに地域との意見交換会を設定し、今できうる方法を模索し最大限の学習効果を求め実施した。</p> <p>今後については、新たな形態を検討していきながら、ふるさと教育の充実を求めていきたい。</p>		10	継続
課 題			
<p>おおなんドリームにおいて、ふるさと教育の充実を図るため、探求的な学習を意識した取り組みをおこなった。</p> <p>今後、このような情勢の中での新しい取り組み形態を模索していきたい。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○ふるさと教育の推進		10	10
<p>・各小中学校において、割り当てられた予算の範囲内で地元の人的資源や環境資源を活用し、講演会や体験活動を計画し、実施した。</p>			
○おおなんドリーム学びのつどい			
<p>今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、対面での開催を見送った。</p> <p>各学校の発表については、資料提供または事前収録の形を取り学習の成果を残し、さらに、それら学習の成果を地域の方にご覧いただき、学校へ地域からのメッセージという形で同じくその様子を収録し、発表校に提供した。</p>		10	10
○学校関係者評価			
<p>・町内小中学校 11 校で学校関係者評価委員を選任し、各校で年 3 回以上委員会議や委員参観の日を設定し、学校の自己評価結果を踏まえた評価を実施し、町教育委員会に報告された。結果は、保護者などへ公表した。</p>		10	10

事務事業名	③ 学校の魅力化		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>教師力向上事業、学力向上事業、おおなんドリーム学びの集い、事業それぞれの項目で評価済</p> <p>特色ある教育などを推進している小規模校への就学を対象とした小規模特別認定校制度を創設し、日貫小学校を指定校とした。</p> <p>地域の子ども達にどのように育てほしいのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取り組むことを目的として、地域の住民や行政、学校(小・中学校)、PTAが主体的・創造的な対話を行いながら、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」という体制を推進した。</p>		10	継続

課 題		
<p>指定校とした日貫小学校の特色ある教育について共有していただき、少しでも就学者が増えるような取り組みを検討していく必要がある。</p> <p>学校、地域、行政(公民館)がどのように協働しながら取り組むべきなのかを明確にし、「育てたい子ども像」の実現に向けて支援していく必要がある。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>・小規模特認校制度説明会 矢上公民館で説明会を開催した。</p>		10

### 施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

事務事業名	① 学校設備の整備	総合 評価	継続、 廃止等
総合点検・評価			
<p>・計画修繕の実施 新型コロナウイルス対策交付金事業により、児童生徒の一人当たり洋式便器の充足率が低い学校を中心にトイレの床乾式化及び洋式化改修整備を実施した。残りの学校についても次年度以降計画的に実施していく必要がある。</p> <p>学校施設照明のLED化は、全学校(石見東小・石見中を除く)の普通教室黒板照明灯及び職員室内照明について改修を実施した。残りの蛍光灯照明等についても、次年度以降計画的に実施していく必要がある。</p> <p>・緊急修繕の実施 町内で発生した遊具施設における事故発生を受け、町内小中学校の屋外遊具について JPFA 規準の緊急総点検を4月に実施。全体の約3割が使用不可、約4割が修繕すれば使用可という結果であった。6月に1期分として緊急修繕により約3割の遊具について状態回復を図り、年度末に2期分として遊具の更新等を実施し、安全確保につなげた。(なお、石見中学校は改築の一連工事で更新するため含まれていない)</p> <p>・石見中学校改築事業 令和2年度 基本構想基本計画、耐力度調査、地質調査、基本設計 令和3年度 基本設計完了、実施設計完了 令和4年度 改築工事 契約 R4.9.5 工期 R6.2.29 完了予定 解体設計業務・校庭外構設計業務</p>		9.0	改善し 継続
課 題			
<p>整備が完了した施設以外については老朽化による劣化が著しい場所もあるため、緊急性を要する修繕工事により、応急的修繕を繰り返しているのが現状であるため、平成30年度に策定した学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修や更新対策、一般修繕などの予防保全的改修に転換していきコスト削減を柱とした学校整備を計画的に進めていく必要があると考える。</p>			



主な事業内容と実施状況	実績 評価
<p>○学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校衛生環境改修工事 (高原小学校、瑞穂小学校、矢上小学校、瑞穂中学校、石見中学校)</li> <li>・小中学校LED照明 (小学校:口羽・阿須那・高原・瑞穂・市木・矢上・日貫) (中学校:瑞穂・羽須美)</li> <li>・屋根防水工事 (日貫小学校教室棟屋上防水)</li> <li>・石見中学校改築工事 (今井産業・溝辺組・石見工業特別共同企業体)</li> <li>・応急措置が必要な個所については、随時修繕を行った。 (瑞穂小通級指導室エアコン修繕・羽須美中廊下床修繕ほか)</li> </ul>	9

事務事業名	② 児童生徒の健康安全対策		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>児童生徒の安全対策で急務となるのが通学路の安全確保であり、防犯パトロールと通学路の安全対策の両面から実施していく必要がある。</p> <p>防犯パトロールは、児童生徒の登下校の安全確保に効果を上げており、新規に青色パトロール隊の隊員になっていただいた方が4人おられた。</p> <p>また、通学路の安全対策を実施するために、町と道路管理者、学校、警察などで組織する「通学路安全推進部会」を活用し、危険箇所の合同点検、対策協議を行い、早期の対策が必要な危険箇所は改善対策を実施した。</p>		10	継続
課 題			
<p>通学路安全推進部会において、毎年通学路の危険箇所の抽出や課題の検討、関係部署への働きかけを行い、危険箇所解消を図っているが、未対策箇所の早期改善に向けて取り組みを進めていく必要がある。また、点検を行った箇所、対策を講じた箇所のその後の点検なども必要であり、各関係者で連携をして行う必要がある。</p> <p>現在、子ども安全センターの青パト隊は、各支部で10人前後の隊員がおり、パトロールに従事しているが、近年、隊員の高齢化によりパトロールに従事できる方が減ってきており、パトロールなどの活動の継続が難しくなっている。引続き、新規登録の募集活動に努めたい。今後も、青パト隊登録者が一堂に介して研修を実施し、日頃の活動に対し士気を高めてもらうことが大切であると思う。</p> <p>なお、青パト隊の活動は基本的にボランティアで行っていただいております、謝礼や燃料代について支払うことは予定していない。今後もそのように考えている。</p> <p>児童生徒の健康診断後の結果通知書や保健調査表の様式が学校ごとに異なるため、邑南町で統一し事務の効率化を図りたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止の観点から通常年では生じないような消耗品の支出、備品の購入要望などの対応について検討していく必要がある。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○防犯・安全教育の推進 各学校でそれぞれ登下校時の安全指導、あいさつ運動、通学路の安全点検、避難訓練などの講習(研修)会を開催した。</p>	10
<p>○邑南町子ども安全センター ・地域住民の防犯意識の高揚と安全活動ボランティアの育成を図るための取組を実施した。 ・9月に青パト隊の防犯パトロール講習会を実施した。 ・青色回転灯によるパトロール(年末特別警戒活動など)を行うなど各地域で防犯のための各種活動を実施した。 ・従事者数:80名(町民) ・登録車両台数 80台(内公用車1台)</p>	10
<p>○学校保健安全衛生対策 ・学校保健安全法で定められている定期健診の実施及び修学旅行前健診などを実施した。 ・各小中学校や学校医などの協力のもと、学校保健安全法施行規則に規定されている6月30日までにすべての小中学校で適切に定期健康診断を実施できた。〔環境保健公社委託検診(心電図など)、内科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、歯科検診〕 ・学校衛生基準に基づき、学校薬剤師及び養護教諭などと連携してダニアレルゲン検査、照度検査、空気検査を実施し、環境衛生の確保に努めた。 ○学校医との意見交換会 2年に1回の開催のため、令和4年度は未実施。次回は令和5年度に開催予定。</p>	10

事務事業名	③ その他		
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等	
<p>学校事務共同実施連絡協議会では、事務職員未配置校において、事務の平準化のためグループ内での支援体制を構築し、情報交換共有アプリを活用してのデータのやりとりやグループ会を未配置校で開催するなど負担の少ない方法により、事務処理を行い、学校運営に寄与することができた。奨学金では、年間を通して適切に処理できた。 教職員住宅では、必要に応じて速やかに修繕を行い、適切な住宅管理ができた。</p>	9.7	改善し継続	
課 題			
<p>学校事務共同実施は、年々増える事務量に対して、効率の良い方法を探っていく必要が生じている。また、事務職員未配置校への事務支援について、計画的な訪問のほか効率的・効果的な方法を考えていく必要がある。 本町では、東部・西部の2つのグループで活動を行っているが、東部グループ該当校(口羽小・阿須那小・羽須美中・高原小・瑞穂小・瑞穂中)については、経験が浅い職員が半数以上を占めるため、グループ内での指導面に課題がある。そのため、西部グループ該当校の事務職員に東部グループ該当校についての兼職発令を島根県に内申し、発令いただいた。 情報交換共有アプリの使い方について、情報みらい創造課職員による教室を</p>			

<p>開催し、主にグループを横断して情報共有する機能について教職員に学んでいただいた。</p> <p>  邑南町奨学金について、経済的に困窮している者がより利用しやすい制度の在り方を見直す必要がある。</p> <p>  教職員住宅については、今後必要な住宅戸数や地域の検討、老朽化した住宅を含めた計画的な住宅管理に努める必要がある。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○学校事務共同実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における働き方改革につながる学校事務部門の充実、強化の推進を図った。</li> <li>・学校事務共同実施連絡協議会で、学校事務職員、町教育委員会や学校管理職との連携や、共同実施会を開くことで文書の整理保管などの事務の効率化を探った。(共同実施会7回、校長会との合同会1回、教頭会との合同会1回、東部グループ会 計12回・西部グループ会 計9回、推進委員会6回)</li> <li>・共同実施だよりを作成し、学校と町教育委員会の間の事務が円滑に行われるようにした。</li> <li>・平成26年度より、11校の内、事務職員未配置校1校という状況になり、これまでどおりの活動を続けることが困難となっている。そのため、西部(石見地域、市木)、東部(市木を除く瑞穂地域、羽須美地域)の2グループに分かれて活動を行い、事務職員未配置校への支援の継続を行った。西部グループ該当校の事務職員に東部グループ該当校についての兼職発令を島根県に内申し発令された。</li> </ul>	10	
<p>○邑南町奨学金貸与事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校など、高等専門学校、専修学校、大学校または大学などに在学し、経済的に困窮している者に奨学金を貸与する。</li> <li>・令和4年度末時点貸与者2名</li> <li>・令和4年度末時点償還対象者4名</li> <li>・令和4年度末時点据置期間または償還猶予対象者3名</li> </ul>	9	
<p>○教職員住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員住宅の保守・点検を行い、教職員が安心・安全に生活できるように努めた。(羽須美地域8戸、瑞穂地域13戸、石見地域16戸)</li> <li>・修繕が必要な箇所は随時修繕を行った。</li> </ul>	10	

## 2. 地域を担う人材の育成(社会教育)

～学び合いによる豊かな地域づくり～

### 施策1 邑南町が推進する人材育成のステップ

～人づくり・地域づくり・町づくりを推進する社会教育～

事務事業名	① 地域とともにある学校づくり		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>地域の实情に応じて、学校単位、地域単位で「どんな子どもに育てたいのか」をまとめ、「共有された子ども像」を学校、地域、行政(公民館)で思いを共有することができた。これをもとに、それぞれで思いの具現化に向けた活動に取り組んだ。</p>		10	継続

課 題		
学校、地域、行政(公民館)がどのように協働しながら取り組むべきなのか(役割分担)を明確にし、「育てたい子ども像」の実現に向けて支援していく必要がある。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○地域とともにある学校づくり 中学校区ごとに育てたい子ども像の共有をし、その具現化に向け公民館を中心に地域での活動を行った。定期的に学校と公民館との連携会議を実施した。		10

事務事業名	② 地域学校			
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等	
公民館ごとに地域の魅力を発見・再認識できるよう意識し事業を展開した。全体での地域学校交流会は開催していないが、公民館まつりや館々交流等で他地域の取り組みを他地域の住民に周知した。		9.0	改善し 継続	
課 題				
ふるさと教育を効果的に実施できるようにするため、子ども達だけでなく、親世代をはじめ地域によって参加の薄い世代を巻き込んで参加者数や地域の協力者を増やすことが必要である。				
主な事業内容と実施状況			実績 評価	
○研修会の開催 継続して地域学校の取組を実施してきた。今年度は引き続き「地域とともにある学校づくり」「学校とともにある地域づくり」を推進するため、「育てたい子ども像」を地域と学校で改めて共有し、事業を行った。			8	
○地域学校の開設及び実施 ・郷土愛を育むために公民館単位で行った。 日貫・・・米、そばづくり体験。 日和・・・竹細工づくり体験。 井原・・・世代間交流レクリエーション(ピクルス、ダンボール財布づくり)、学校と連携しての雲井の里 PR 事業 田所・・・ダンボールで甲冑を作成し、二ツ山に登山するイベントを実施。 阿須那・・・軍原キャンプ場で川遊びや飯ごう炊飯を行った。 口羽・・・地域の方を講師に地域のことを学ぶ学習会を実施。 布施・・・ヤマもみじ、エビネなど移植、ハムづくりを行った。 中野・・・防犯教室を開催。 高原・・・学校と連携して紙漉き(卒業証書づくり)を行った。 出羽・・・野菜を植えて秋に収穫するなどを行うわんぱく学校(7回開催) 矢上・・・川遊び、ドローン教室 市木・・・令和3年度に引き続き「市木市」を計画していたが、直前にコロナウイルス感染拡大により中止となった。			10	

事務事業名	③ 家庭教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>子育て関係団体、地域ボランティアによる、地域総がかりで子育てを行うという土壌づくりを意識した取り組みである「わくわくフェスタ」プロジェクト会議では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止としたが、「We フェス」(社会教育フォーラム)に合わせ子育て世代をターゲットとしたイベントと協力体制を図った。</p> <p>「ミニミニ外国」実行委員会会議では、コロナ禍でもできることはないかを検討協議しながら、地域スタッフで内容を検討しながら開催し、地域で子育てを行う意識を醸成した。</p>		9.6	改善し継続
課題			
<p>今後も、イベントの仕方について考える必要がある。各小中学校の研修会、子育てイベントを利用し、保護者同士の繋がりを検討していきたい。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○家庭教育の支援</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からワークショップ的な研修は開催されにくい状況が続いたが、親学ファシリテーターの活動としては2件あった。</p>			9
<p>○子育て講演会の開催</p> <p>・We フェス(社会教育フォーラム)と連携し、親子での参加を募り、地域づくり講演会をはじめ、親子で触れ合える機会をもつことができた。</p>			10
<p>○子育てに関するネットワークの構築</p> <p>・わくわくフェスタプロジェクト会議は開催できなかったが、社会教育委員の会において、We フェス(社会教育フォーラム)を通しての「家庭教育」に関して、「今の子どもたちに何を伝えたいか」など「遊び」を通しての共通理解を図った。</p>			9
<p>○思春期子育て講座の開催</p> <p>・「性・命・人権教育講演会」を中学生とその保護者・教職員を対象に保健課、学校と連携し実施した。命、自分の大切さを考え、相手へ思いやりの気持ちをもつことの大切さを学んだ。2会場で同一内容の講座を実施した。</p>			10
<p>○自然教育体験事業の推進</p> <p>・「暮らしのなかの防災」講演と株式会社「モンベル」のテント設営体験、子どもたちの焚火体験を実施し、自然体験の促進を図った。</p>			10

事務事業名	④ 青少年教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>地域素材(ひと、もの、こと)を生かした体験活動を実施してきた。</p> <p>地域の大人と関り、ふるさとを知り、誇りに思い、地域の将来を見据え、自分の未来を考えていく意識の醸成を図ることができた。</p>		10	継続
課題			
<p>地域の思い、願いをどのように子どもたちに伝え、そして残していくのかという</p>			

システムの構築を発展させ、親世代も巻き込んでいけるようなプログラムの開発が求められる。		
主な事業内容と実施状況		実績評価
○放課後子ども教室(放課後子ども総合プラン) ・公民館が主催するもの、児童クラブとの連携のもと実施するものなど、関係機関との連携が充実したことで地域ボランティアの協力を得て体験活動を中心に開催した。		10
○プレーパーク事業(地域学校) ・地域学校については、各公民館において、地域素材を生かした体験活動を中心に実施している。		10

事務事業名	⑤ 成人教育		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
時代背景や学習ニーズを把握しながら、成人教育として重点的に取り組むべきテーマを幅広く学習するための「町民大学」を4回企画した。ワークショップ形式のほか、ZOOMを使用し、出かけやすい各地域で聴講できるようにした。		10	継続
課題 町民の要求課題を把握できる場の設定(ワークショップ)や体制の整備が必要である。周知(広報)の仕方について、多くの方に参加していただけるように、引き続き早めにチラシなど配布し、関係団体やグループにも周知をしていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○邑南町民大学の開催 「邑南町人権講演会」(221名) 「SDGs講座 人の生活に関わるゴール」(20名) 「SDGs講座 社会やエネルギーに関する6つのゴール」(14名) 「SDGs講座 自然環境の保護と人の行動に関する5つのゴール」(20名)			10

事務事業名	⑥ ボランティア活動の機会の充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
新型コロナウイルスまん延防止や、休校の影響により、学校へ地域の方が入ることができない状況もあったが、学校支援からのボランティア育成について地域コーディネーターに積極的に活動してもらい、学校支援を中心とした「応援団」の増員・設置に努めた。地域の方々を巻き込むことができている。		10	継続
課題 地域と子どもたちが繋がることのできる事業を、公民館、学校でつくることにより、関われる場を多く作る必要がある。学校支援ボランティア・町主催イベントや地域行事などで募集するボランティアなどに、町民が積極的に参加しようとする意識変容ができる仕掛けを検討し、更にボランティアに参加する人を増やすこ			

とが必要。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○ボランティアの活動支援 ・地域の資源を活用した人材育成のためのボランティア活動、町民大学の案内など研修機会や情報の提供を行い、地域コーディネーターへも情報提供を行った。また、安心して活動してもらえるよう保険加入などの支援を行った。		10
○人材バンクの整備(学習支援の視点から) ・公民館を拠点に活動している各種団体などからの支援、学校支援ボランティアの情報など共有し、新たなボランティアを探したところ、ボランティア登録者数が昨年度同様290名となった。必要に応じて地域活動を支援した。地域コーディネーターの協力の下、学校ボランティア名簿を整備している。		10

事務事業名	⑦ 学習支援者の確保と育成		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
町内にある自主的なサークルなど多くの団体・グループに、必要な研修の場や講演会などの案内を公民館に協力してもらい積極的に周知することができた。社会教育主事講習3名受講し、うち全員が修了することができた。		9.0	改善し 継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> 各種少年団体指導者(登録指導者含む)の研修などのさらなる参加を促すための情報提供や周知が必要である。 社会教育主事研修については、様々な事情で参加できない公民館主事のために、研修に参加しやすい環境を整備し積極的に受講できるようにする。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○少年団体指導者の育成 ・町民大学の案内、スポーツ少年団指導者講習会の案内、こども会や地域学校関係者、青少年育成邑南町民会議委員に案内を行い、活動を支える支援者、指導者の研修の場となった。			9
○社会教育主事の育成 ・社会教育の指導者養成のため、公民館主事3名が社会教育主事研修を受講し、全員が修了した。令和4年度末、現在、社会教育士14名。			9

事務事業名	⑧ 団体・グループの育成・支援		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
子ども会育成会の支援について、保険加入促進や町民大学・県子ども会連合会からの研修案内など、学習機会についての情報提供や各団体の年間活動の把握など緊密な連携による支援体制の構築に努めることができた。		10	継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> 自主的なサークルなど多くの団体、グループが活動している。地域にある後継者不足などの課題に気づき、その解決課題に取り組める人づくりのため、地域に			

密着している公民館と連携し、研修など企画していく必要がある。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○社会教育関係団体などの育成支援 ・町内の社会教育関係団体に、研修や講演会などの案内を行った。公民館や元気館のチラシも配布し、情報提供を行った。		10
○子ども会育成会の支援 ・町内の子ども会育成会へ助成金、学習機会についての情報提供と保険加入促進を行った。		10

事務事業名	⑨ 学習情報の提供		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
本町広報誌の連載、教育委員会及び公民館だよりなど、紙媒体での情報提供のほか、公民館だよりは邑南町ホームページでも閲覧できるようにしており、より広範囲において情報の共有ができた。		9.0	改善し 継続
課 題 各公民館で開催する地域課題の解決のための講座など、町民の多くが関心のある内容の講座は地区限定ではなく、他館との共催開催や全体広報などを行い周知していく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○広報・啓発活動の充実 ・町広報誌・教育委員会だより・公民館だより・町ホームページ・ケーブルテレビや公民館まつりなどのイベントでの呼びかけにより、生涯学習活動の普及、啓発に努めた。 ・各地域の情報が全町はもとより町外にも伝わるよう、各機関が連携した情報提供に努めた。			9
○情報提供資料の充実 ・公共施設に充実した情報提供資料を備えた。			9

## 施策2 2020 東京パラリンピック以降のレガシーに関する事業 ～ユニバーサルな意識を確実に後世に残すために～

事務事業名	①東京パラリンピック以降のレガシー		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
東京オリンピック・パラリンピックが終了し、共生社会の実現を図るため、東海大学や、共生社会推進アドバイザーによる講演会を実施し、心のバリアフリーも含め町民1人ひとりの意識の醸成を図る取り組みを行った。		9.4	改善し 継続
課 題 5つのレガシー(ユニバーサル、スポーツ、カルチャー、ヒューマン、インバウンド)の最大化の取組みが重要課題である。共生社会実現のためにこれまでの活動や、新型コロナウイルス感染拡大防止のためフィンランド共和国との交流はで			



きなかったが、持続可能な取組ができるための仕組みを構築していくことに努める。		
主な事業内容と実施状況		実績評価
○ユニバーサル(だれにでも優しいひと、もの、こと)の推進 誰もが幸せと感じるまちづくりの推進として、障がい者競技であるゴールボール体験会を町内だけではなく他自治体にも出向き実施することで、様々な方に体験していただいた。また、東海大学によるフィンランドを介しての「共生社会」について講演会を実施した。共生社会実現のための機運が高まる取組を行った。	10	
○スポーツの推進 ゴールボールやフィンランドの軽スポーツであるモルックの体験会を学校や公民館などの施設で12回行った。また、日本ゴールボール協会による「チャレンジゴールボール大会」が町内で開催され、町内チームを募り体験も含めて行った。パラリンピックメダリストによる講演会も実施し、スポーツを通しての「共生社会(障がい・障がい者理解)」について学ぶことができた。	10	
○カルチャー(文化の向上) フィンランド共和国交流派遣事業を計画していたが新型コロナウイルスの影響により延期・中止となった。東海大学の講演会で、フィンランドの文化についても学ぶ機会をもつことができた。	9	
○ヒューマン(ふるさとを愛する人の育成) 今年度はフィンランド共和国交流派遣事業について新型コロナウイルスの影響により中止となった。しかし、町民の方にフィンランドについて知ってもらうことを目的として、東海大学の講演会をフィンランドとの繋がりを念頭におき実施した。	9	
○インバウンド(外国人が本町を訪れる旅行) 施設内の案内に、英語表記を入れたり、障がいのある人への音声ガイドを設置するなど取り組みを実施した公民館があった。こういった取り組みを今後も各施設で実施できるよう取り組んでいきたい。	9	

### 施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業

～魅力ある地域を支える人材の育成～

事務事業名	① 公民館の整備・充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
邑南づくり教育計画や邑南町の未来を創造する公民館などをもとに12公民館ごとに年間計画を作成し活動推進協議会で承認してもらい、コロナ対策を講じながら公民館活動を展開した。活動を見える化し地域内外へ知ってもらうことで、画期的な公民館運営に繋がった。		9.0	改善し継続
課 題			
各公民館ホームページの更新や、SNSなどによる情報発信を行う他、2次元コードを活用するなど時代のニーズにあった申し込みツールを積極的に活用していく必要がある。 より多くの住民が公民館や地域の活動に関心を持ってもらえるような働きか			

けが必要。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○公民館活動の推進 各公民館ごとに公民館活動推進協議会を開催し、活動計画の策定や事業内容の検討を行った。 コロナ対策を講じ、各種活動を実施した。(全公民館)</p>		9
<p>○地域づくりへの支援 ・地区別戦略と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を実施し、秋には二ツ山イベントで子ども武者行列や狼煙を実施した他、二ツ山から雲海と朝日を見るイベントを開催し、歴史や風土を学ぶ取り組みを行った。(田所公) ・地区別戦略発展事業団体「高原を楽しくする会」等と協力し、地域課題の解決に向けて協議・実践を行った。(高原公) ・地区別戦略事業や銭宝自治会と共催し「ごちゃまぜシリーズ」として公民館事業や地域づくり事業を展開し、公民館が単独で動くのではなく、関係者を増やすことで幅広い活動を行った。 銭宝自治会とも共催で自主防災訓練や自主防災学習会を行った。(布施公) ・地区社協と共催で市木地区民の多世代交流を行う事業(地区民誕生会)を年4回開催した。(市木公) ・地区戦略事業協議会と共同で、キャンプ講座、フリーマーケット、ボランティア清掃、イルミネーションなどを実施した。(矢上公) ・地区別戦略事業のイベントでの準備や当日運営などの支援を行った。(井原公) ・公民館事業「日和村塾」実施により、地域課題の掘り起こしや振興の方策について考える機会を提供した。(日和公) ・地域とともにある学校づくりの取り組みを実施し、学校や地域とともに設定した地域目標を活かした事業実施に努めた。(全公民館)</p>		9
<p>○生涯学習情報の提供 ・公民館だよりを毎月発行し、各館と元気館ロビーに紹介コーナーを設けるとともに、併せて町ホームページの公民館だよりも更新している。 その他にも公民館行事や様々な情報を、ケーブルテレビや公民館だより等で定期的な情報発信を行った。(全公民館) ・地区別戦略どがあずしょう会との共催イベントの情報発信は、SNSを活用した。(田所公) ・年間を通して図書やサークル活動の作品の展示を行った。(市木公、中野公)</p>		9

事務事業名	② 健康・福祉に関する学習		
	総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等
保健課や運動指導士と連携してウォーキングや認知症予防教室など、にも声かけを行い様々なスポーツを楽しんでもらい、健康づくりや交流を図った。		9.0	改善し 継続
課 題			

地域住民で自主的に活動ができるように保健課など関係機関の協力を仰ぎながら支援を行う。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○健康増進事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動公民館事業で「椅子ヨガ」を4地域で開催した。また、バランスボール教室を年3回開催した。(阿須那公)</li> <li>・保健課と連携して、3月の宗林寺の桜が開花する時期を狙い、地域の魅力発見をテーマに地域のお宝をめぐるコースを設定したウオーキングを実施した。健康づくりと地域学習のきっかけになった。(口羽公)</li> <li>・健康づくりの一環として健康ウオーキングを、出羽ひな街道の開催期間に併せ保健課と共催で実施した。(出羽公)</li> <li>・井原地区の名所を周る健康ウオーキング(スタンプラリー)を保健課と連携して実施した。その中で矢上高校生が考えた運動企画等も実施した。(井原公)</li> <li>・認知症予防教室を毎月開催している。(田所公、市木公、矢上公、井原公)</li> <li>・元気高齢者の育成をめざし、運動教室の支援やサロンにおいて出前公民館としてでかけ、脳トレ、軽スポーツ、レクリエーションを行った。また町の出前講座として町内の高齢者支援を行った。また、コミュニティ部主催による銭宝オリピックの開催により世代間交流を行った。(布施公)</li> <li>・地区社協と共催でグラウンドゴルフ大会を年2回開催した。(市木公)</li> <li>・毎月3B体操を開催し参加者の健康増進を図った。(矢上公)</li> <li>・鍼灸院の先生に東洋医学の話と健康ストレッチの指導を受けた。(中野)</li> <li>・運動指導士や保健師の指導による運動教室を定期的に開催した。 (口羽公、田所公、布施公、市木公、中野公、井原公、日貫公、日和公)</li> </ul>		9

事務事業名	③ 多様な分野の学習の場の提供		
	総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等
<p>邑南づくり教育計画や邑南の未来を創造する公民館を基に各公民館の年間計画をしっかりと立て公民館運営ができた。地域の方のデジタル化への対応・フォローや今まで関わりの少なかった世代へのアプローチなどに力を入れた。</p>		9.0	改善し 継続
<p>課 題</p> <p>学びやすい環境を整えるとともに、公民館に関わる人を増やしていく。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
<p>○男女共同参画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動推進協議会に女性役員として多数参画してもらい、活動計画の策定や事業内容の検討を行った。(口羽公、日和公)</li> <li>・地域でおこなわれるさまざまな会合に優先的に女性の参加を促した。 (布施公、日和公)</li> <li>・布施公民館文化祭に、女性の活動推進を目的とした「おおなんぺんぎんプロジェクト」のメンバーに声掛けし、バザーや来館に協力してもらった。(布施公)</li> <li>・町民課と共同で館内ロビーに男女共同参画啓発パネルを設置し来館者の男女共同参画への意識向上を図った。(矢上公、日貫公)</li> </ul>			9

<p>・「大人のアフターセブン教室」を定期的開催し、男女問わず若者世代の参加を促した事業を行った。また、講師や参加者を女性にするよう意識して取り組んだ。教室中に参加者のパートナーが子どもを公民館で見るとも有り、女性の憩いの場としてなっていると感じている。(井原公)</p>	
<p>○平和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館への来館者に平和への願いを込めて折り鶴を折ってもらい、折り鶴アートとして展示した。(阿須那公)</li> <li>・銭宝地区全体に声掛けし、平和公園内貞子像に納める千羽鶴を折った。(布施公)</li> <li>・平和学習として広島平和記念資料館からパネルをお借りして各公民館巡回方式でロビーに展示した。(全公民館)</li> <li>・神戸学院大学の岡部芳彦教授にお越しいただき、ロシアのウクライナ侵攻の最新情報と歴史的背景、支援の方法についてご講演いただいた(町公連協)</li> <li>・夏休みに児童クラブを対象に平和学習会を開催した。(田所公)</li> </ul>	9
<p>○人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元小学校教諭を講師に迎え、人権講演会を開催した。過去の歴史教育と現在の歴史教育について異なることも多く歴史の学び直しができた。(阿須那公、口羽公、出羽公)</li> <li>・島根県人権啓発推進センター啓発指導講師による自尊心を育むための講座や、性的少数者に関する研修を人権同和教育講演会として開催した。(口羽公、高原公)</li> <li>・瑞穂中学校と共催で性的マイノリティーについて研修会を行い理解を深めた。(田所公)</li> <li>・年間2回研修会を行った。1回目はサロンを利用しテーマ「決断のランキング わたしの大切なもの」をゲーム形式で行った。2回目は公民館文化祭において視覚障がい者の方にハーモニカ演奏会を開催し、併せてその生き方の話を聞いた。(布施公)</li> <li>・浜田市人権擁護委員、瑞穂地域人権擁護委員を講師に人権学習会を開催した。併せて人権グッズの配布を行った。(市木公)</li> <li>・3館の共催で映画のユニバーサル上映に関する講演会を開催した。(矢上公、中野公、井原公)</li> <li>・石見地域公民館共催で(注意欠如・多動症)ADHDに関する講演会を開催した。(矢上公、中野公、井原公、日貫公、日和公)</li> <li>・公民館まつりにて人権パネルの展示を行った。また、ワークショップ形式の人権学習会を開催した。(中野公)</li> <li>・視覚障がいがある方でも映画館を楽しんでもらうための取り組みである音声ガイドやバリアフリー上映等の話をしてもらった。(井原公)</li> <li>・島根県西部人権啓発推進センターより啓発用DVDを借り、公民館事業や公民館利用者の貸館使用の際にDVD鑑賞による人権啓発を行った。(日和公)</li> </ul>	9
<p>○環境教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口羽地域学習会で「やっぱりホタルを学ぼう」を開催し、ホタル舞う口羽地域の素晴らしさと環境を守る必要性を伝えた。(口羽公)</li> <li>・地区別戦略と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を行った。整備の延長で武者行列や狼煙、朝日や雲海、初日の出を拝むイベントを行い、地域の魅力を再発見することができた。(田所公)</li> <li>・ふるさと探検隊として「親子で魚釣り」を行い、前半は魚つりで後半は川に生息する珍しい魚等のお話を地元の方に伺った。(布施公)</li> <li>・ぜにほう学校として山野草の楽園周辺で春の自然観察会を行った。(布施公)</li> </ul>	9

<ul style="list-style-type: none"> <li>・春と秋に5館合同で自然観察会を行い、地元の自然や景色を堪能し参加者同士の交流を図った。(田所公、出羽公、高原公、布施公、市木公)</li> <li>・小学校との事業でふるさと探検隊として、地区の歴史やお宝について学習した。(市木公)</li> <li>・産業支援課と協力して町内の自然の魅力を知ってもらう「森の学校」を開催した。(矢上公、日和公)</li> <li>・石見東小学校に対して、稲作体験(事前学習、田植え、稲刈り)、田んぼの生き物調査、東明寺山登山(事前学習、登山)を地域団体と協力して開催した。(中野公、井原公)</li> <li>・ふるさと学習のメニューとして、ハンザケ自然館と協力して地区内のオオサンショウウオ観察会を実施した。(日和公)</li> </ul>	
<p>○高齢者学級の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する学習会や軽スポーツ(モルックなど)を実施する事業である「今年もみんな元気」を移動公民館で各集落等で開催した。(阿須那公)</li> <li>・高齢者の希望により、日貫の旧山崎家住宅を見学し、その歴史を学んだり、食育事業として「ハムづくり」を行った(布施公)</li> <li>・切り絵教室、フラワーアレンジメント教室を開催した他、島根県社会福祉協議会と共催でくにびき学園公開講座「ビレッジプライド」をオンラインで開催した。(中野公)</li> <li>・高齢者と子ども達を対象にした多世代交流事業である「わくふれレク」を実施した。ピクルスづくり、段ボールで財布等作成、レジンで小物づくり等行った。また、高齢者等を対象に気軽に集い、学ぶ場をつくる事業である「井原でホット時間(タイム)」を開催し、介護保険や新聞の読み方、シニアカーの使い方等の学習会を実施した。(井原)</li> <li>・交通安全教室、特殊詐欺講演会を開催した。(日貫)</li> </ul>	9
<p>○成人学級の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出羽ひな街道に向けての飾り付けの作成についてもち花作り教室と竹細工教室を開催し、もち花や竹細工を作成し、出羽ひな街道実施時に展示した。(出羽公)</li> <li>・成人学級を開催。公民館まつりで田植え囃子も披露。また、菊芋栽培も行っており畑に出での作業も行っている。(市木)</li> <li>・職を超えてゆるくつながる若者交流事業「夜にちよい活」を開催し、ボードゲームで参加者同士の交流を図った。(矢上公、中野公、井原公)</li> <li>・仕事や子育て等で日中、公民館活動に参加できない層に対して 19 時以降から開催する「大人のアフターセブン教室」を定期的で開催した。参加者の意見を聞きながら次回内容を決定している。</li> </ul> <p>パソコン教室を定期的実施し、理解を深めた。(井原公)</p>	9
<p>○現代的課題講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報格差のという現代課題に対して、各公民館毎で、スマホの使い方サポートやスマホ教室、SNS講座などを行った。(全公民館)</li> <li>・町民課、総務課から依頼があり、マイナンバーの申請手続き支援を全館で行った。(全公民館)</li> <li>・活動推進協議会主催の出前講座、消費者問題センターの講座を開催した。(口羽公)</li> <li>・夏休みの地域学校にて地域の方と子どもを対象に防犯教室を実施し、手作り反射材作りも行った。(中野公)</li> <li>・地域の住民を対象とした学ぶ場である「ホットタイム」を平日の日中に定期的開催。電動車の使い方や、介護保険の使い方、落語の講演会などを実施。集いの場としても</li> </ul>	9

<p>実施している。(井原公)</p>	
<p>○ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源である軍原キャンプ場で川遊びや飯ごう炊飯を行い、地域の良さを知ってもらった。(阿須那)</li> <li>・口羽通良について、広島大学名誉教授に依頼し、「口羽氏の歴史と遺産の継承」と題し、地域の遺産をどう伝えるかの提言をいただいた。(口羽公)</li> <li>・出羽・田所公民館では瑞穂小学校と共同でふるさと学び合い講座を開催した。地元の講師を招いて、鱒かぶや久喜銀山遺跡の学習を行った。(田所公、出羽公)</li> <li>・二ツ山にちなんだイベントを開催に向けて地域学校を2回開催し、ダンボール甲冑づくりを通して歴史や風土を学んだ。(田所公)</li> <li>・ぜにほう学校として、1回目は自然体験活動、2回目は食育事業「親子でハムづくり命をいただく」を実施した。また、ふるさと探検隊として「親子で魚つり」を開催した。 (布施公)</li> <li>・小学校との事業でふるさと探検隊として、地区の歴史やお宝について学習した。また、そこで学習したことの発表会に、ふるさと学芸員養成塾員が出席した。(市木公)</li> <li>・地区戦略事業協議会と連携し、地域の文化や自然に触れる体験活動を地元小学生を対象に行った。(原山登山、川遊び、やまんば土偶づくり)(矢上公)</li> <li>・夏休みこどもウォーキングを開催し天蔵滝で水遊びを行った。(井原公)</li> <li>・小学5、6年生を対象に紙漉き体験を行った。(日貫公)</li> <li>・地域学校「日和子ども塾」において地域の自然素材を活用した竹細工づくりを実施した。(日和公)</li> </ul>	9
<p>○高校生を対象とした講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石見養護学校と連携し、石見マルシェを開催した。(口羽公)</li> <li>・公民館まつりに出羽地域出身の高校生がブースを出し、パンやクッキーを販売することで、地域住民との交流を促進することができた。(出羽公)</li> <li>・島根大学の学生を講師に夏休み宿題お助け隊を行う。参加者の中に高校3年生1名が参加した。(布施公)</li> <li>・矢上高校2年生の授業「総合的な探究の時間」において、地元の伝統料理をPRする活動を生徒とともに行なった。(矢上公)</li> <li>・矢上高校2年生の授業「総合的な探究の時間」において、「地域の予防医療」をテーマに活動を行っている生徒とともに井原地区のイベント企画、出演やオリジナル体操づくりを行った。(井原公)</li> <li>・卒業を控えた矢上高校生および石見養護学校生の生徒を対象に、社会に出ていく際に必要なことや知っておいてほしいことを学ぶ機会を設けること、将来について卒業後も邑南町にかかわり続け、いずれは邑南町で生活することを視野に入れてもらいたいことの2つを目的として、①キャッシングや消費者トラブルにおける注意点や食育に関する講座、②町内で働く若者とのトークセッションを開催した。(町公連協)</li> </ul>	9
<p>○館々交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・羽須美地域2館共催で「羽須美地域公民館まつり」や「人権学習会」を開催した。 (阿須那公、口羽公)</li> <li>・春と秋に瑞穂地域5館合同で自然観察会を行い、地元の自然や景色を堪能し参加者同士の交流を図った。(田所公、出羽公、高原公、布施公、市木公)</li> <li>・高原小学校校区を対象に2館連携し、「親子で魚つり」と「鮎の掴み取り」を行った。</li> </ul>	9

<p>(高原公、布施公)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県道55号線繋がりで美郷町比之宮公民館と新たに公民館だよりやイベントなどの情報交換を行った。(布施)</li> <li>・中学生SALONの共同開催。(市木公、矢上公、中野公、井原公、日和公、日貫公)</li> <li>・2館共同で産業支援課と協力して町内の自然の魅力を知ってもらう「森の学校」を行った。(矢上公、日和公)</li> <li>・若者交流を目的に「夜にちよい活」を開催し、ボードゲームで参加者同士の交流を図った。(矢上公、中野公、井原公)</li> <li>・石見地域公民館共催人権講演会を実施した。 (矢上公、中野公、井原公、日貫公、日和公)</li> <li>・2館共催で子どもカルチャーバスを開催した。(日貫公、日和公)</li> </ul>	
<p>○女性リーダーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性セミナーを毎月1回開催し、自分達でやりたい事を決めて準備や進行を任せる取り組みにより、女性リーダーの育成を推進した。(田所公)</li> <li>・「大人のアフターセブン教室」を定期的で開催するなかで、講師や参加者を女性にするよう意識して取り組んだ。(井原公)</li> </ul>	9

事務事業名	④ 学習成果発表の場の充実		
	総合 評価	継続、 廃止等	
<p>総合点検・評価</p> <p>社会教育の取り組みを発表し、幅広さや楽しさを知ってもらう場として、「WEフェス」を今回初開催した。参加者が約500名あった。コロナ禍で各種サークルの発表の場が減る中で、展示会や活動発表などを積極的に実施し、社会教育に関心を持ってもらうことができた。</p>	9.3	継続	
<p>課 題</p>			
<p>引き続き「WEフェス」を計画的・有効的に実施し、公民館と関わってくれる方や社会教育に関心を持つ人の掘り起こしにつなげ、地域全体で社会教育に取り組んでいく力を見出す必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況	実績 評価		
<p>○公民館まつり・文化展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止措置を講じ、規模を縮小しながら公民館まつりを実施した。(全公民館)</li> <li>・これまで公民館の活動の発表の機会がなかった銭宝地区に沢山の名人や達人の力をかりて今年度初めて文化展と文化祭を行った。日頃の公民館のサークル活動や地域での活動をごちゃまぜにして集いの場を設定した。多くの方が参加した。また、この活動がきっかけになり住民有志によりひまなつり文化展も開催することができ来年につながった。(布施公)</li> <li>・ビッグひな祭り文化展を開催。(市木公)</li> <li>・コロナ過の中で、公民館まつりの舞台発表は中止としたが、これまで各教室や団体で作成した作品の展示を行い、それぞれの発表の場として例年以上に公民館としてバックアップした。また、おおなんケーブルテレビと共同で踊りなどのステージ発表を撮影し放送することで、学習成果の発表の場を提供した。(口羽公、田所公・出羽公・矢上公)</li> </ul>	10		

・クリスマスコンサート(文化展等同時開催)を行った(日貫)・	
○教室・サークルの支援 ・公民館だより等で教室の PR、サークル紹介を行った。また、サークルで製作したものを展示するコーナーを設け、活動の周知及び参加意欲の向上を図るとともに、来館者に楽しんでもらうように工夫した。(全公民館) ・教室に必要な資料等を作成し、サークル活動のバックアップを行った。(田所公) ・公民館だよりで教室生を募集したり、活動がしやすい環境整備等の支援を行ったり、新規教室の提案等を行った。(高原公)	9
○おおなんフォーラム～社会教育の集い～ 公民館の事例発表を通じて、社会教育の幅広さや楽しさを知ってもらうきっかけとするため、各種団体の協力を得ながら「WEフェス！」として開催した。	9

事務事業名	⑤ 相談窓口		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
邑南町公民館連絡協議会の活動は多くの公民館が関わるので単館で行う事業にもつながり、幅広い取り組みとなった。地域内の方のデジタル化への対応に向けた事業も実施できた。		9.0	改善し継続
課題			
相談内容が多岐に分かれているので様々な知識や情報の習得が必要とされる。デジタル化や各種申請手続きへの相談窓口としての機能も充実させていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○相談窓口の充実 ・町民の学習に関する相談に対して教育委員会・公民館で指導・助言を行い、学習意欲の高揚と人材育成を図り、また、その他の相談についても他機関への取り継ぎを行った。(全公民館) ・マイナンバーカードの申請会とスマホの操作相談会を行った他、各種情報提供や相談に応じ、時に必要に応じて他機関への取り次ぎを行った。(全公民館)		9	
○広域での連携強化 ・町公連事業8回 ・美郷町比之宮公民館と情報交換及び公民館だよりの設置。(布施) ・川本町の三原まちせんマルシェに中学生SALONとしてボードゲーム交流ブースを出店した。(市木、矢上、中野、井原、日貫、日和)		9	

#### 施策4 図書館教育の充実

～魅力ある地域を支える人材の育成～

事務事業名	① 図書館の整備・充実		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
「第3次邑南町子ども読書活動推進計画」に基づき、読書ボランティアの方と共に感染対策を取りながら、図書館でのおはなし会を実施した。また、学校、保		9.8	改善し継続



<p>育所などにおはなしを届けることができた。</p> <p>学校司書からの相談を受け、資料の選定を協力しておこなった。</p> <p>図書の新規購入は利用者からのリクエストや現代のニーズに合わせ蔵書構成を考えながら行っている。また、相互貸借、特別貸出を活用し利用者の要望に応えることができた。Web 予約の件数は年々増えている。郷土資料などの登録作業は今後も継続しておこなう。</p>		
課 題		
<p>子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、親子読書普及を今後も進めていく。児童への貸出数が減少傾向にあることから、読書内容を深めるための手だてを学校司書と連携し進めていく必要がある。郷土資料の収集、登録、保存継続的にこなう。資料の廃棄等をすすめて、魅力ある棚構成を目指す。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○新規図書の購入</p> <p>・蔵書構成、利用者のニーズを考慮し資料の充実に努めた。調べ学習資料の買い替えなど。新規購入 児童書385冊、一般書558冊</p>	10	
<p>○県立図書館特別貸出の活用</p> <p>・石見地区、羽須美地区は公民館に県立図書館の図書を設置し住民の読書に供している。</p> <p>・借受冊数 3,000 冊 ・相互貸借(他の図書館より資料の借受)634件</p>	10	
<p>○読書普及活動の推進</p> <p>・感性やコミュニケーション能力を育み、子どもの生活を豊かにすることを目的とし、保育所・園、小学校、からの要望に対し、読書ボランティアとの調整を行った。</p> <p>・公民館・ボランティア団体と連携し、講演会などに関連書籍を展示し、成人への読書啓発を行った。(2回)</p> <p>・個人貸出 33,052 冊(目標値 37,000 冊)は目標値に達していない。理由としては、児童書の貸出しが減少している。団体 4,927 冊(目標値 10,000 冊)。学校図書館、保育所などの福祉施設(感染防止のため来館の減少)への貸出が減少している。</p> <p>・ブックスタート0歳児43人、1歳6カ月児57人、3歳児54人へ絵本を手渡し、親子読書の大切さを伝えた。</p> <p>・子どもたちへ読書の関心を高めるために、夜のおはなし会(1回)を実施した。また、毎月の展示に工夫をこらした。読書ボランティアの協力により、大人のためのお話会(1回)、本館、石見分館でおはなし会を実施した。</p> <p>・WEB予約、貸出冊数の制限をなくした取り組みは好評であり、今後も継続していく。</p> <p>・一堂に会しての職員研修はできなかったが、各自自主的に研修会に参加した。</p>	9	
<p>○20歳のブックスタート事業</p> <p>・推薦図書を高校学校司書と選定、及び読みたい本を取りまとめ贈呈した。対象者数96名。</p>	10	

## 施策5 社会体育の充実

～生涯にわたるスポーツの実践と夢、感動を与えることのできる人づくり～

事務事業名	① 生涯スポーツ活動			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
<p>様々な社会体育事業に邑南町体育協会や邑南町スポーツ推進委員協議会が中心になって取り組んだ。また、スポーツ推進委員は住民へのスポーツ推進に関する事業の運営にも積極的に参加され、会の自立に努力されている。いずれの団体も、コロナ禍で中止となる事業もある中で、できる事業は感染対策をしっかりと行いながら誰もが楽しめるスポーツ振興のために事業実施をしている。</p>			10	継続
課 題				
<p>誰もが楽しめるスポーツの振興を社会体育推進団体と協働して進め、地域に密着したリーダーを育成する。</p>				
主な事業内容と実施状況				実績 評価
<p>○スポーツの普及拡大 邑南町体育協会瑞穂支部主催の「邑智駅伝」が開催された。コロナ禍で中止となる事業が多い中、年度末の開催ということもあり、コロナの状況も比較的落ち着いた中での開催となった。 島根かみあり国スポ・全スポ 2030 に関する情報を各種団体と共有する場を設けた。部活動の地域移行に向けたアンケートが実施され、そのことについても各種団体と情報共有する場を設けた。</p>			10	
<p>○生涯スポーツの支援 ・各団体と協力し、それぞれの団体の運営を尊重し大会、交流会の開催の有無を決定した。 ・関係団体主催の行事に積極的に参加協力(邑南町長杯野球大会)を行った。邑南町バレーボール大会、親善ソフトバレーボール大会、町長杯グラウンドゴルフ大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 ・体育協会の支部長会を開き各支部の情報共有やイベントについて共有化を図った。 ・邑南町スポーツ推進委員を対象に、モルック研修会を実施した。</p>				
<p>○スポーツにふれあう機会の提供 ・出前講座やWe フェスでのユニバーサルスポーツブース等を通じて、レクリエーションや軽スポーツ、障がい者スポーツ(ボッチャ、ゴールボール)を紹介し、実践した。 (出前講座:年8回)</p>			10	
<p>○スポーツ教室の開催 ・スポーツ教室を1回(午前、午後各1回)実施。出雲北陵中学・高校卓球部の皆さんを招いて実施した。子どもから大人まで多くの方に参加していただいた。</p>			10	

## 施策6 学び合いによる豊かな地域づくり

～個性と活力に満ちた地域協働体制の形成～

事務事業名	① 出前講座			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
各課をはじめ、公立邑智病院、警察署、消防署、町社会福祉協議会など、各団体でメニューの見直しを行い、全92個のメニューにより受講申込団体の希望に沿った講座が開設できた。			10	継続
課 題				
各課、各団体でメニューの変更、追加を行った。引き続き申し込み団体の希望に沿えるよう、団体と講師との調整を図っていききたい。				
主な事業内容と実施状況				実績 評価
○出前講座の充実 ・町民憲章の達成に向け、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行ったうえで町職員、各団体職員などが地域に出向いて講座を実施し、63講座 1,627 人の参加を得た。				10

事務事業名	② 住民自治による地域づくりの推進			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
地区別戦略や自治会と連携し、地域課題の解決に向けた協議・検討を行った。			9.0	改善し 継続
課 題				
各公民館が、それぞれ地域の実情に合わせて、地域の担い手となる団体、組織との情報共有及び連携をはかることで、さらなる住民自治による地域づくりの推進を支援する必要がある。				
主な事業内容と実施状況				実績 評価
○地域運営組織、地区別戦略発展事業との連携 ・地区別戦略と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を実施し、秋には二ツ山イベントで子ども武者行列や狼煙を実施した他、二ツ山から雲海と朝日を見るイベントを開催し、歴史や風土を学ぶ取り組みを行った。(田所公) ・地区別戦略発展事業団体「高原を楽しくする会」等と協力し、地域課題の解決に向けて協議・実践を行った。(高原公) ・地区別戦略事業や銭宝自治会と共催し「ごちゃまぜシリーズ」として公民館事業や地域づくり事業を展開し、公民館が単独で動くのではなく、関係者を増やすことで幅広い活動を行った。また、銭宝自治会とも共催で自主防災訓練や自主防災学習会を行った。(布施公) ・地区社協と共催で市木地区民の多世代交流を行う事業(地区民誕生会)を年 4 回開催した。(市木公) ・地区戦略事業協議会と共同で、キャンプ講座、フリーマーケット、ボランティア清掃、イルミネーションなどを実施した。(矢上公) ・井原地区別戦略事業のイベントでの準備や当日運営などの支援を行った。(井原公)				9

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協と共催でグラウンドゴルフ大会を年2回開催した。(市木公)</li> <li>・布施公民館文化祭に、女性の活動推進を目的とした「おおなんぺんぎんプロジェクト」のメンバーに声掛けし、バザーや来館に協力してもらった。(布施公)</li> <li>・ふるさと探検隊として「親子で魚つり」を行い、前半は魚つりで後半は川に生息する珍しい魚等のお話を地元の方に伺った。(布施公)</li> <li>・地区戦略事業協議会と連携し、地域の文化や自然に触れる体験活動を地元小学生を対象に行った。(原山登山、川遊び、やまんばん土偶づくり)(矢上公)</li> </ul>	
--	--

事務事業名	③ 健康センターの活用		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	今年度の利用は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、通常利用が出来ず25,367人に減少した。一方安心して施設を利用していただけるよう、館内空調システムの一部について室外機及び室内機の修繕を行った。	8.0	改善し継続
	課題		
	施設の利用形態を検討しながら、利用しやすい環境を整備する必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○健康センターの活用推進 ・コロナ禍の影響により、大きな催しの開催が中止となることもあったが、次第に例年どおりの催し物も再開されている。		8

## 施策7 学校と地域が連携(一体)した取り組み

事務事業名	①食育の推進		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	「食育」の取り組みとして、地産地消コーディネーター1名を配置し、安全安心な地元食材を学校給食で提供した。	9.3	改善し継続
	課題		
	地産地消の推進活動では材料費が高騰する状況の中、地産地消と安全安心な学校給食の提供と「食育」の推進を継続する必要がある。令和4年度末でコーディネーターが不在となっており、これまで同様に生産者との連携を図る取り組みが必要である。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○学校給食センター ・2か所の学校給食センターの運営補助と継続した支援を行った。 ・安全安心な給食の提供に引き続き努め、献立や給食だよりの発行などを通じて情報を発信し、継続した食育の推進を図った。		9

<p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き給食センターに生産者と調理場をつなぐ地産地消コーディネーターを配置し、地元食材の調達などの業務を専門的に取り組まれた。</li> <li>地産地消の推進として、食材費の一部(地元野菜)及び石見和牛肉購入費の一部も継続して町負担とした。</li> <li>・今年度も地元食材を東・西両センターで積極的に活用するよう地産地消コーディネーター、栄養教諭、調理師と共に取り組んだ。</li> </ul>	9	
<p>○一校一菜プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で農産物を育て、それを学校給食や地域の人と食することで、生産から消費までの一貫した過程を体験することを目的とし、11校で取り組み、実施することができた。</li> <li>・今年度は野菜栽培指導員を設置し、小中学校の野菜を育てる管理方法などの指導を行う体制作りを整えた。</li> </ul>	10	
<p>○食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の食育月間に併せて、町内12公民館において、「食育の月間」について公民館報による広報を実施した。</li> <li>・健康センター元気館内において、保健課で取り組んでいる「野菜プラスワン活動」についても食育の観点から、懸垂幕を掲示した。また、各種イベントにおいて、センサーに手のひらをあてるだけで野菜の摂取量の目安が分かる「ベジチェック」を実施した。</li> </ul>	9	
<p>事務事業名 ② 読書の普及</p>		
<p>総合点検・評価</p>	総合 評価	継続、 廃止等
<p>調べ学習に適した資料の収集と相互貸借により学校図書館へのバックアップが充実してきている。</p> <p>図書館での各種行事や学校での読書普及活動において、多くの読書ボランティアの協力を得ることができた。研修会を1回実施。</p>	9.0	改善し 継続
<p>課 題</p>		
<p>現在ある資料の見直しを行うとともに、今後も学校図書館をバックアップしていくための資料収集に努める。</p> <p>読書ボランティアの更なる資質向上と新たな読書ボランティアの育成に努め、ネットワークを広げていく必要がある。</p>		
<p>主な事業内容と実施状況</p>	実績 評価	
<p>○読書の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書ボランティアの協力により、朝の読み語り(全校)、ストーリーテリング(全校)、ブックトーク(1校)などの読書活動が継続できている。</li> <li>・学校での調べ学習などのレファレンスに対応し、資料の収集を行った。</li> </ul>	9	
<p>○読書ボランティアの研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の約120名の読書ボランティアの方に小・中学校で朝の読み語りなどに関わってもらった他、図書館での行事などに参加、協力してもらっている。</li> <li>・研修会実施(1回)することができた。</li> </ul>	9	

### 3. 地域文化の創造

～学び合いによる豊かな地域づくり～

#### 施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

～郷土の文化や文化財を大切にし、愛郷心を育てる事業の推進や活動の充実～

事務事業名	① 関係施設の整備・充実と有効活用		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>ふるさと教育推進の拠点としての、文化財関係各施設の機能は維持できており、町内小学校の授業の一環として施設利用があるなど、一定の役割を果たした一方、文化財施設などの老朽化が顕在し始め、今後修繕などを計画的に実施していく必要がある。</p> <p>各施設の情報提供について、施設の活動状況とリンクした情報提供ができた部分もあり、しまねミュージアム協議会を通じた類似館との連携を図ることで、より一層「伝える」「活用する」「体験する」取組を図っていききたい。</p>		9.5	改善し継続
<p>課題</p> <p>郷土館、ハンザケ自然館について、町内の小中学校すべてに授業などで利用していただけるよう展示物や企画展、イベントなど両館が持つ情報を各校と共有できる体制づくりをしていく必要があるとともに、地域素材を用いた学習プログラムの開発をすることで、より一層町内の児童・生徒に対する愛郷心の醸成を図っていききたい。ハンザケ自然館は一昨年より町の直営となり、学習施設としての役割を今一度確認し、事業を実施していききたい。</p>			
		主な事業内容と実施状況	実績評価
<p>○郷土館の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土館の収蔵品の整理は随時行った。</li> <li>・展示品の入れ替えを行うなど、展示の充実を図った。</li> <li>・来館された方への対応を随時行った。(来館者数:923人)</li> <li>・郷土館周辺的环境整備として、除草作業を4回実施した。</li> <li>・郷土館活動推進協議会を1回開催した。</li> <li>・企画展を2回開催した。</li> </ul> <p>夏季企画展「邑南の山城展」と題し、242人の集客があった。</p>			10
<p>○自然館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境に関する講師として講座などを1回行った。</li> <li>・特別天然記念物オオサンショウウオの保護及び調査を11ヶ所行った。</li> <li>・希少動植物及び湿地などの保護や調査を13ヶ所行った。</li> <li>・オオサンショウウオの屋内での人工産卵について、産卵行動は確認したが、産卵には至らなかった。関連する調査研究に取り組んだ。</li> </ul>			9

事務事業名	② ふるさとの歴史・文化に関する調査・学習支援		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>国史跡久喜銀山遺跡に関する講座や小中学校での出前講座などを実施し、町民が直接文化財に触れる機会を提供できた。</p>		8.7	改善し継続

課 題			
<p>日本遺産となった石見神楽や他の伝統芸能についても、保存継承が図られるよう引き続き取り組みを行っていきたい。</p> <p>町内に所在する文化財について、今後包括的な保存の仕方や活用のあり方について議論をしていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
<p>○文化財の保護・保存・調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護審議会を1回行った。</li> <li>・文化財保護審議会委員を対象として、町内の指定文化財の再確認及び研修を実施した。</li> <li>・縄手吹所跡の発掘調査を報告書作成への資料整理を行った。</li> <li>・史跡久喜銀山遺跡保存活用委員会を2回開催した。史跡の価値を明らかにした上で、適切に保存・活用するための保存活用計画策定事業を進めた。</li> <li>・各種開発協議に伴う埋蔵文化財協議を51件行った。</li> </ul>			8
<p>○文化財の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座の講座名「ふるさとを学ぼう」などで5回対応した。受講者は累計130名だった。公民館及び町内団体主催の行事イベントにおける史跡ガイドの支援等を行った。</li> </ul>			9
<p>○伝統芸能の保存伝承の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化継承保存団体間の連携を図るための会議などは開催できなかったが、鹿子原虫送り踊り保存会が中国・四国ブロック民俗芸能大会への出演やコロナ禍後の再開を機会に、伝統文化の継承や保存に対する各団体構成員の意識の高揚が見られた。</li> </ul>			9

事務事業名	③ 芸術・文化に関する学習支援		
	総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等
<p>ハンザケ自然館で、写真展を複数回開催した。新型コロナウイルスの影響で減少していた来館者の確保につなげた。また、SNSの運用も開始し、様々な取り組みを全国に情報発信をした。</p>		10	改善し 継続
	課 題		
<p>邑南の自然・景観写真展について、邑南町の自然の大切さを啓発する観点を勘案しつつ、SNSなどを用いた情報発信など、より多くの人に邑南町の豊かな自然に着目してもらえるような方法について検討していく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然館で「邑南の自然・景観写真展」を1回、「邑南の野鳥展」を2回開催した。前者では応募者の人数は15人と例年通りだったが、新規応募者が増え、展示の様相が新たになった。後者では野鳥ファンや写真愛好家の来館が増えた。</li> <li>・自然館でインスタグラム、Twitterの運用を開始した。コロナ禍で来館することができない方へ、オオサンショウウオの食事風景や身体測定の模様などを発信。インスタグラムは800人、Twitterは713人のフォロワーがいる。</li> </ul>			10

## 4. 人権教育・啓発の推進

### 施策1 人権教育

～不合理な差別を許さない人権教育と啓発の深化～

事務事業名	① 人権・同和教育	
	総合 評価	継続、 廃止等
<p style="text-align: center;">総合点検・評価</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止した研修会があったが、ジェンダー平等、障がい・障がい者理解研修や、性の多様性、ネットトラブル関係の研修などを各公民館や企業団体などで行った。また、リモートを利用することで参加者が集まりやすいよう取り組んだ。継続して取り組んでいる各種団体の啓発推進者への講座も開催し、事業所からも高評価の感想もあった。</p> <p>開催した研修会のアンケート結果では、参加者の固定化傾向解消にむけて、初めての参加者がどの程度あるか、アンケートに項目を設けて調査した。2講演の結果ではあるが回収数に対して初参加者が20%あり、一定数初参加者がいることが伺えた。</p>	9.8	継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>引き続き、講演会への参加者の固定化を解消していくため、内容や告知の方法を検討していく。また、同和問題DVD及びDVD「心のバリアフリー」、書籍「部落解放運動史(全国水平社創立100年)」を公民館主事会などで引き続き活用していく。小グループ、保護者会などへの啓発が広がり、講演会への参加意識を高め、固定化解消へとつなげて行く必要がある。ひきつづきアンケートで初参加者の把握を行う。</p> <p>また、各種団体の啓発推進者対象の講座を継続して開催していくことで人権課題を自分の問題としてとらえ、新たな研修参加者へとつながる取組が必要である。</p>		
<p>主な事業内容と実施状況</p>	<p>実績 評価</p>	
<p>○職員の研修</p> <p>・職員研修を8月、11月、2月に実施し、162名参加した。今後も継続して、職員研修はできるだけ全職員が参加するよう関係課と連携を強めて参加してもらうよう働きかける。</p> <p>島根県職員の制度を参考に人権啓発研修推進員制度を平成30年度から取り入れ、職員の意識啓発につながるよう部署ごとの人権研修を進めることとし全課で実施した。</p> <p>県の主催する社会人権・同和教育啓発基礎講座に公民館主事未受講者及び新規採用から3年目までの職員を対象として基礎講座へ参加した。(3回延べ42名)</p>	10	
<p>○地域への啓発</p> <p>・各公民館での「人権に関する研修」を必須としており、19講演実施している。</p> <p>地域での人権意識の広がりを引き続き行っていく。</p>		
<p>○邑南町人権・同和教育推進協議会との連携</p> <p>・総会開催の準備段階からしっかりと連携できた。年3回の研修会を開催した。また県の主催する研修会や各種研修会を関係課へも周知し、広く案内を行い、積極的に参加した。邑南町人権啓発推進講座へ各種団体から参加があった。1211団体+役場(推進員含む)+公民館2124名。昨年度よりも参加者は減少したが、初めて参加の企業があった。</p> <p>参加者の固定化がみられるものの一定程度初参加者がいることが伺えた。研修会のアンケートでは、行動へと向かう前向きな感想が増えてきている様子が見えてくる。</p>	9	



<p>○学社連携による人権・同和教育の推進</p> <p>・中学校区ごとに学期に1回以上開催した。県立学校、SSW、浜田教育事務所の参加も得ながらアドバイスもいただき、人権・同和教育の推進状況や支援の必要な児童生徒についての取組内容を検証するなど情報交換することができた。</p> <p>今後も引き続き人権・同和教育の推進や進路保障に対する理解と、取組みが各校に徹底されるよう開催していく。</p>	10
<p>○人権に関する住民意識調査の活用</p> <p>令和2年度に行った「邑南町人権問題に関する町民意識調査」の集計結果について、女性が男性に比べ差別を受けていると感じている割合が高いなどの課題も出ている。課題解決のために、人権に対する正しい知識を身につけ、差別を見抜き差別をなくす「多様性教育」を推進していく。</p>	10